TOSHIBA

Leading Innovation >>>

ご使用になる前に

準備する

再生する

設定

その他

REGZA
レグザブルーレイ

東芝ブルーレイディスクプレーヤー

形名 **SD-BD3**

取扱説明書

BONUSVIEW™

dts-HD Master Audio Essential

HDMI AVCHD AVCREC™

x.v.Color

- このたびは東芝ブルーレイディスクプレーヤーをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
- お求めのブルーレイディスクプレーヤーを正しく使っていただくために、お使いになる前にこの「取扱説明書」をよくお読みください。
- 最初に安全上のご注意をお読みください。
- お読みになったあとはいつも手元においてご使用ください。
- 保証書を必ずお受け取りになり、内容をご確認のうえ、たいせつに保管してください。
- 製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際には、本体の製造番号と保証書の製造番号が一致しているかご確認ください。

本機の特長

メディア再生

● 対応メディア
ブルーレイディスクの再生ができます。ブルーレイディスクのほかに、DVDや音楽用CD、USBメモリー内のファイル再生もできます。

● AVCHD
ハイビジョン映像をビデオカメラの撮影で記録できるフォーマット規格「AVCHD」の再生に対応しています。

● AVCREC™
ハイビジョン放送をDVDに記録するための規格「AVCREC™」の再生に対応しています。

HDMI接続による機能

お持ちのテレビがフルHD対応の場合、ハイビジョン高画質映像をお楽しみいただくには、HDMI端子で接続いただくことをおすすめします。HDMI端子は映像と音声の両方を兼ねており、1本のケーブルで簡単に接続ができますので、お使いのアンプなどのオーディオシステムも簡単に接続することができます。
また、HDMI端子を使用して接続した場合、以下の機能がお使いいただけます。

● HDMIディープカラー
お使いのテレビがHDMIディープカラーに対応している場合、再生映像の色深度（ディープカラー）を拡張して出力し、より自然に近い色を再現することができます。

● HDMI連動機能（レグザリンク機能）
当社製REGZAシリーズ（テレビ）と本機をHDMI端子を使ってつなぐと、本機の動作とテレビの動作を連動して行える「レグザリンク機能」が使えます。（レグザリンク対応品にかぎります。）

● 1080プログレッシブ24フレーム（1080/24p）
お持ちのテレビが1080プログレッシブ24フレームに対応している場合、毎秒24フレームで記録した映画などフィルム素材をブルーレイディスクで再生する際、余計な変換処理を挟まずに高画質でより自然に近い映像を楽しめます。1080プログレッシブ24フレームをお楽しみいただくには、本機の設定が必要です。

ブルーレイディスク機能

● BD-J
Javaアプリケーション（BD-J）を含むブルーレイディスク ビデオでは、本編の視聴に加え、ゲームや対話型コンテンツなど、インタラクティブな機能を楽しめます。

● PIP：ピクチャー・イン・ピクチャー（BONUSVIEW™）
PIP機能に対応したブルーレイディスク ビデオの再生では、副映像を含むシーンは、副映像を別画面で表示できます。

● BD-LIVE™
本機は、BD-LIVE™に対応しています。BD-LIVE™機能を利用する際は、本機をインターネットに接続する必要があります。（BD-LIVE™機能で利用できるコンテンツは、ディスクによって異なります。）

● ポップアップメニュー
ポップアップメニューが含まれたブルーレイディスクでは、再生中に再生画面上でさまざまな操作ができるポップアップメニューが表示されます。（ポップアップメニューの内容は、ディスクによって異なります。）

その他の再生機能

● フルHD対応
本機は、1080pの解像度まで対応しています。
フルHD映像を楽しむには、HDMIケーブルでフルHD対応テレビに接続することが必要です。

● 1080pアップスケーリング
DVDの再生では、アップコンバート機能によって、標準解像度の映像を最大1080pまでアップスケール処理し、HDMIケーブルでテレビと接続することで、よりきれいな画質で再生できます。

● マルチチャンネルサラウンド音声
本機では、より現実に近い音声を楽しめるマルチチャンネルサラウンド音声出力に対応しています。

● x.v.Color
“x.v.Color”で撮影した映像を再生できます。“x.v.Color”の色空間、より天然に近い広色域の映像をお楽しみいただくためには、HDMIケーブルで“x.v.Color”対応のテレビに接続する必要があります。（詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。）

再生できるメディア

再生できるメディア	ロゴ	ディスクの大きさ／種類	再生できる内容	この取扱説明書での表示
ブルーレイディスクビデオ	Blu-ray Disc	12cm片面1層、2層	おもに市販のソフト 本機のリージョン(地域)コードはAです。「A」や「A」を含むリージョンマークが表示されたディスクの再生ができます。 (例)	ブルーレイディスク
BD-RE (Ver.2.1)		12cm / 8cm 片面1層、片面2層	BDMVフォーマットの録画番組 BDAVフォーマットの録画番組 MP3（音声ファイル） JPEG（画像ファイル）	
BD-R (Ver.1.1/1.2/1.3)		12cm / 8cm 片面1層、片面2層		
DVDビデオ	DVD VIDEO	12cm片面1層、2層 8cm片面1層	おもに市販のソフト 本機のリージョン(地域)コードは2です。「2」や「2」を含むリージョンマーク、または「ALL」が表示されたディスクの再生ができます。	DVD
DVD-RW	DVD RW	12cm / 8cm 片面1層	VRモードの録画番組（CPRM対応） ビデオモードの録画番組 AVCREC™モードの録画番組 AVCHD録画映像 MP3（音声ファイル） JPEG（画像ファイル）	
DVD-R DVD-R DL	DVD R R47	12cm / 8cm 片面1層、片面2層		
CD-DA（音楽用CD）	COMPACT disc DIGITAL AUDIO	12cm / 8cmディスク	おもに市販のソフト	CD
CD-RW	COMPACT disc ReWritable	12cm / 8cmディスク	MP3（音声ファイル） JPEG（画像ファイル）	
CD-R	COMPACT disc Recordable			
USBフラッシュメモリ	–	–	MP3（音声ファイル） JPEG（画像ファイル）	USB

- 上記以外のディスクは再生できません。
- ファイナライズ（クローズ）を行っていないBD-Rは再生できないことがあります。また、ファイナライズを行っていないDVDは再生できません。
- ディスク、USBフラッシュメモリの特性、記録状態によっては読み取れなかったり、正常に再生できないことがあります。
- 本機と異なるリージョンコードのディスクは再生できません。
- 本機では、NTSC（日本のテレビ方式）以外の方式で録画されたディスクは再生できません。

付属品

以下の付属品をご確認ください。

- リモコン（1 個　形名：SE-R0399）
- 単四形乾電池（2 個）
- 映像・音声接続コード（1 本）
- 取扱説明書（本書）

ご使用になる前に：
安全上のご注意を必ずお読みください。

もくじ

安全上のご注意

製品本体および取扱説明書には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。次の内容(表示・図記号)をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

■ 表示の説明

表示	表示の意味
⚠警告	"取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷(*1)を負うことが想定されること"を示します。
⚠注意	"取扱いを誤った場合、使用者が傷害(*2)を負うことが想定されるか、または物的損害(*3)の発生が想定されること"を示します。

*1：重傷とは、失明やけが、やけど(高温・低温)、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
*2：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
*3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

■ 図記号の例

図記号	図記号の意味
⦸ 禁止	"⦸"は、**禁止**(してはいけないこと)を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
● 指示	"●"は、**指示**する行為の強制(必ずすること)を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
△ 注意	"△"は、**注意**を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

⚠警告

異常や故障のとき

煙が出ていたり、変なにおいがするときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
安全を確認してから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

落としたり、キャビネットを破損したときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。お買い上げの販売店に点検・修理をご依頼ください。

内部に水や異物がはいったら、すぐに電源プラグをコンセントから抜く
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。お買い上げの販売店に点検・修理をご依頼ください。

電源コードが傷んだり、電源プラグが発熱したときは、すぐに電源を切り、電源プラグが冷えたのを確認しコンセントから抜く
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。

警告

設置するとき

屋外や風呂、シャワー室など、水のかかるおそれのある場所には置かない

火災・感電の原因となります。

風呂、シャワー室での使用禁止

ぐらつく台の上や傾いた所など、不安定な場所や振動のある場所に置かない

本機が落ちて、けがの原因となります。

禁　止

電源プラグは家庭用交流100Vのコンセントに根元まで確実に差し込む

- 交流100V以外を使用すると、火災・感電の原因となります。
- 差し込みかたが悪いと発熱によって火災の原因となります。
- 傷んだ電源プラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

指　示

上に物を置かない

- 金属類や、花びん・コップ・化粧品などの液体が内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。
- 重いものなどが置かれて落下した場合、けがの原因となります。また、本体内部に変形を起こし、トラブルの原因となることがあります。

上載せ禁止

コンセントから電源プラグが抜きやすいように設置する

万一の異常や故障のとき、または長期間使用しないときなどに役立ちます。

指　示

時々電源プラグを抜いて点検し、プラグやプラグの取り付け面にゴミやほこりが付着している場合は、きれいに掃除する

電源プラグの絶縁低下によって、火災の原因となります。
（電源プラグは本体電源がオフのときに抜いてください。）

指　示

使用するとき

修理・改造・分解はしない

火災・感電の原因となります。
点検・修理はお買い上げの販売店にご依頼ください。

分解禁止

雷が鳴りだしたら、本機や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

接触禁止

ディスクトレイや通風孔などから異物を入れない

ステープル、クリップなどの金属類や紙などの燃えやすいものが内部に入った場合、火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

異物挿入禁止

電源コードは

- 傷つけたり、延長するなど加工したり、加熱しない
- 引っ張ったり、重いものを載せたり、はさんだりしない
- 無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしない

火災・感電・断線の原因となります。

禁　止

可燃性ガスのエアゾールやスプレーを使用しない

清掃や可動部の潤滑用など、可燃性ガスを本機に使用すると、噴射される可燃性ガスが本機の内部に留まり、モーターやスイッチの接点や静電気の火花が引火して、爆発や火災が発生するおそれがあります。

禁　止

注意

設置するとき

温度の高い場所に置かない

直射日光の当たる場所・閉め切った自動車内・ストーブのそばなどに置くと、火災・感電の原因となることがあります。また、破損、その他部品の劣化や破損の原因となることがあります。

禁　止

移動させる場合は、電源プラグ・外部との接続コードをはずす

電源プラグを抜かずに運ぶと、電源コードが傷つき火災・感電の原因となることや、外部との接続コードなどをはずさずに運ぶと、本機が転倒し、けがの原因となることがあります。

指　示

注意

設置するとき

湿気・油煙・ほこりの多い場所に置かない
加湿器・調理台のそばや、ほこりの多い場所などに置くと、火災・感電の原因となることがあります。

高い場所に設置しない
本機が落下した場合に、けがの原因となるため、高い場所への設置はしないでください。

風通しの悪い場所に置かない
内部温度が上昇し、火災の原因となることがあります。
- 壁に押しつけないでください。
- 押し入れや本箱など風通しの悪い場所に押し込まないでください。
- テーブルクロス・カーテンなどを掛けたりしないでください。
- じゅうたんや布団の上に置かないでください。
- あお向け・横倒し・逆さまにしないでください。

禁 止

使用するとき

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かない
電源コードを引っ張って抜くと、電源コードや電源プラグが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。

背面の通風孔をふさがない
内部温度が上昇し、火災の原因となることがあります。これら通風孔とラックとの間は10cm以上離してください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となることがあります。

テレビやオーディオシステムの音量を上げすぎない
音量を上げすぎると、耳への刺激で聴力に悪い影響を与えたり、ご近所の迷惑になります。特に夜間は、日中よりも音量を下げるようにしてください。

旅行などで長期間ご使用にならないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く
万一故障したとき、火災の原因となることがあります。

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しない
ディスクは本機内で高速回転しますので、飛び散ってけがや故障の原因となることがあります。

ディスクトレイに手を入れない
指をはさみ、けがの原因となることがあります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

電源を入れる前には音量を最小にする
電源を入れる前には、接続しているアンプなどの音量を最小にしておいてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

リモコンに使用している乾電池は、
- **指定以外の乾電池は使用しない**
- **極性[(+)と(−)]を間違えて挿入しない**
- **充電・加熱・分解・ショートしたり、火の中に入れない**
- **乾電池に表示されている[使用推奨期限]を過ぎたり、使い切った乾電池はリモコンに入れておかない**
- **種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない**

これを守らないと、液もれ・破裂などによって、やけど・けがの原因となることがあります。
もし、液が皮膚や衣類についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。液が目にはいったときは、すぐにきれいな水で洗い眼科医の治療をうけてください。器具に付着した場合は、液に直接触れないで拭き取ってください。

使用上のお願い

取扱いに関すること

■ 非常時を除いて、電源が入っている状態では電源プラグをコンセントから抜かないでください。故障の原因となります。
■ 移動させるとき
引っ越しなど、遠くへ運ぶときは、振動が伝わらないように、傷がつかないように毛布などでくるんでください。
■ 殺虫剤や揮発性のものをかけたりしないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変色したり、塗装がはげるなどの原因となります。
■ たばこの煙や煙を出すタイプの殺虫剤、ほこりなどが機器内部にはいると故障の原因となります。
■ 長時間ご使用になっていると上面や背面が多少熱くなりますが、故障ではありません。
■ ふだん使用しないとき
必ず、ディスクを取り出し、電源を切っておいてください。
■ 長期間使用しないとき
機能に支障をきたす場合がありますので、ときどき電源を入れて、使用してください。

置き場所に関すること

■ 本機は水平で安定した場所に設置してください。ぐらぐらする机や傾いている所など不安定な場所で使わないでください。ディスクがはずれるなどして、故障の原因となります。本機を設置する場所は、本機の重さに十分に耐えられることを確認してください。また本機が落下した場合に、けがの原因となるため、高い場所への設置はしないでください。
■ 本機をテレビやラジオ、ビデオデッキの近くに置く場合には、本機を使用中、組み合わせによっては画像や音声に悪い影響を与えることがあります。万一、このような症状が発生した場合はテレビやラジオ、ビデオデッキからできるだけ離してください。
■ 直射日光のあたる場所、熱器具の近くなど温度が高くなる場所や、ビデオデッキなど熱源になるような機器の上には置かないでください。故障の原因となります。

お手入れに関すること

■ お手入れの際は、本機の電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。
■ 本体や操作パネル部分のよごれは柔らかい布で軽く拭き取ってください。
ベンジン、シンナーは絶対使用しないでください。変色したり、塗装がはがれたりする原因となります。

日本国内用です

本機を使用できるのは日本国内だけです。外国では電源電圧やテレビ方式が異なりますので使えません。
This player is designed for use in Japan only and cannot be used in any other countries.

音量について

市販のブルーレイディスクやDVDの中には、音楽CDなどの他のソフトよりも、音量が小さく感じられる場合があります。
これらのディスクの再生のためにテレビやアンプ側の音量を上げたときには、再生が終わったあとに必ず音量を下げてください。

結露（露付き）について

結露はディスクや本機を傷めます。よくお読みください。
たとえば、よく冷えたビールをコップにつぐと、コップの表面に水滴がつきます。これを“結露（露付き）”といいます。この現象と同じように、本機の内部のピックアップレンズや部品、部品内部などに水滴がつくことがあります。

■ “結露”はこんなときおきます。
- ● 本機を寒いところから、急に暖かいところに移動したとき
- ● 暖房を始めたばかりの部屋や、エアコンなどの冷風が直接あたるところに置いたとき
- ● 夏季に、冷房のきいた部屋・車内などから急に温度・湿度の高いところに移動したとき
- ● 湯気が立ちこめるなど、湿気の多い部屋に置いたとき

■ 結露がおきそうなときは、本機をすぐに使用しない
結露がおきた状態で本機をお使いになりますと、ディスクや部品を傷めることがあります。ディスクを取り出し、本機の電源プラグをご家庭のコンセントに接続し電源を入れておくと、本機があたたまり水滴がとれますので、しばらく放置してからご使用ください。

レーザー製品の取扱いについて

- ● 本機は、レーザーシステムを使用しています。本製品を正しくお使いいただくため、この取扱説明書をよくお読みください。また、お読みいただいたあとも必ず保管してください。修理などが必要な場合は、お買い求めの販売店に依頼してください。
- ● 本取扱説明書に記載された以外の調整・改造を行うと、レーザー被爆の原因になりますので絶対におやめください。
- ● 本機は、映像信号の読み取りのためにレーザーを使っています。弱いレーザー光のため、人体に大きな影響はありませんが、安全のため、絶対に製品を分解しないでください。

免責事項について

- ● 地震や雷などの自然災害および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- ● 本製品の使用または使用不能から生ずる付随的な損害（事業利益の損失・事業の中断など）に関して、当社は一切責任を負いません。
- ● 取扱説明書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- ● 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。

操作説明と実際の動作

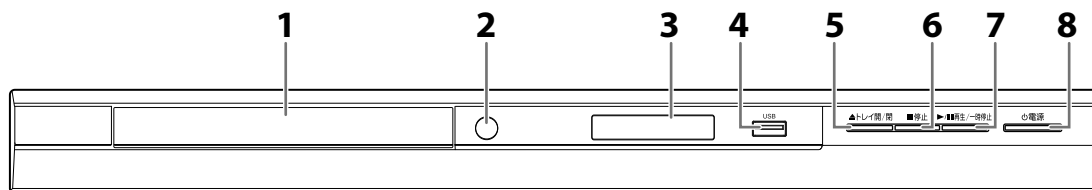
この取扱説明書は、本機の基本的な操作のしかたを説明しています。
ブルーレイディスク、DVDのおもな市販ソフトなどでは、ディスク制作者側の意図で再生状態が決められていることがあります。本機はディスク制作者が意図した内容に従って再生を行うため、操作したとおりには動作しないことがあります。再生するディスクに付属の説明書もご覧ください。
ボタン操作中に画面に“ ⃠ ”が表示されることがあります。“ ⃠ ”が表示されたときは、本機またはディスクがその操作を禁止しています。

本機を廃棄 / 譲渡するとき

- 本機にはお客様の操作に関する情報が記録されています。廃棄や譲渡などで本機を手放される場合は、お買い上げ時の設定に戻して（35 ページ）、記録された情報を必ず消去してください。
  本機に記録される個人情報に関しては、お客様の責任で管理してください。
- 本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例または規則に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。

ご使用になる前に
準備する
再生する
設定
その他

各部のはたらき

■ 前面

1　ディスクトレイ
ディスクを入れます。（ 23 ページ）

2　リモコン受光部
リモコンをここへ向けて操作します。（ 20 ページ）

3　表示窓
"本体表示窓" をご覧ください。（ 13 ページ）

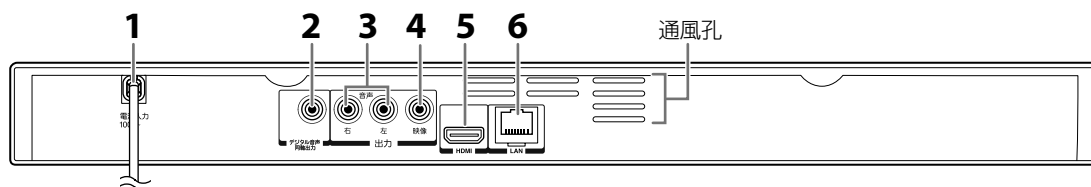
4　USB端子
- 本機で再生できるファイルが記録されたUSBフラッシュメモリを差し込みます。（ 23 ページ）
- BD-LIVE™機能付きのディスクの再生時にUSBフラッシュメモリを差し込みます。（ 24 ページ）

5　▲トレイ開/閉ボタン
ディスクトレイの開/閉をします。（ 23 ページ）

6　■停止ボタン
再生を停止します。（ 24 ページ）

7　▶/II 再生/一時停止ボタン
再生を開始します。（ 24 ページ）
再生中にもう一度押すと、一時停止します。
（ 26 ページ）

8　⏻電源ボタン
電源を「入」、または本機をスタンバイ状態にします。（ 21 ページ）
（本機の電源を完全に切るには、電源コードを抜いてください。）

■ 背面

1　電源コード
電源プラグをAC100Vコンセントに差し込みます。（ 16 、 17 、 18 ページ）
完全に本体の電源を切るには、電源コードをコンセントから抜いてください。

2　デジタル音声同軸出力端子
デコーダー内蔵ＡＶアンプなどのデジタル音声（同軸）入力端子と接続します。（ 18 ページ）

3　音声出力端子
テレビやオーディオ機器のアナログ音声入力端子（赤／白）と接続します。（ 16 、 18 ページ）

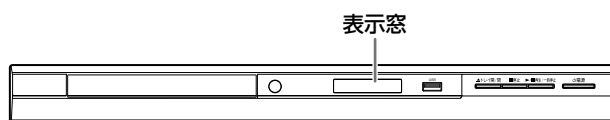
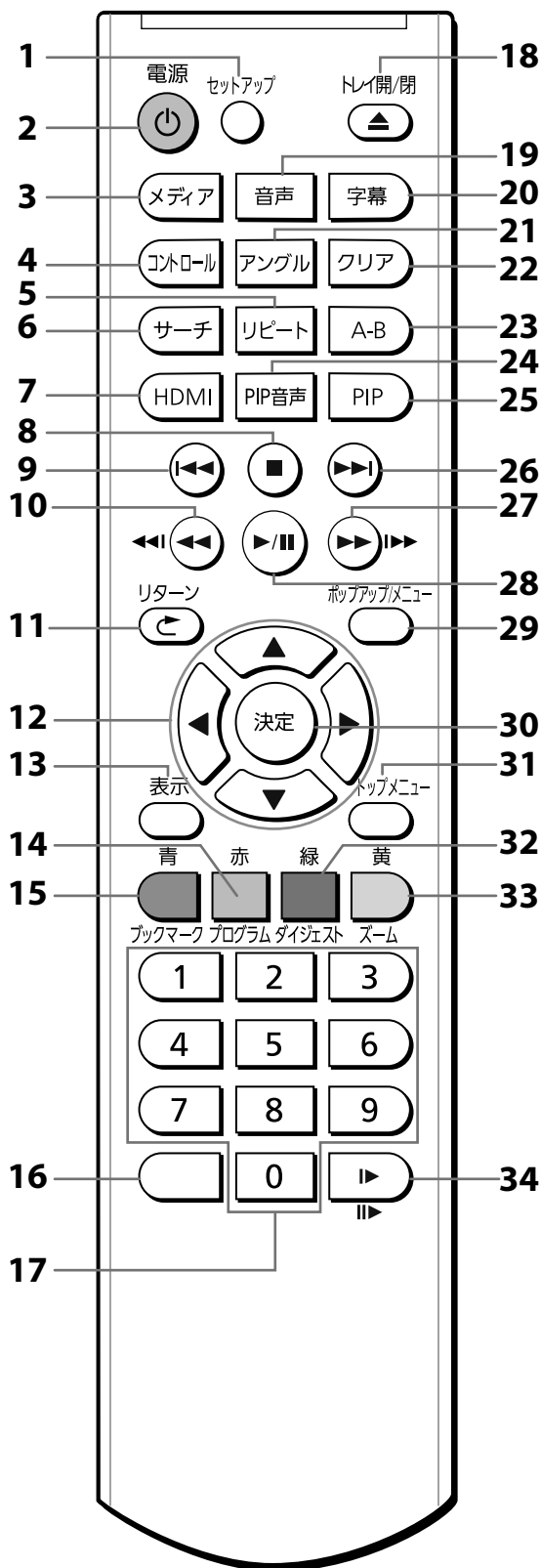
4　映像出力端子
コンポジット映像信号が出力されます。（ 16 ページ）
テレビの映像入力端子（黄）と接続します。

5　HDMI出力端子
テレビなどのHDMI入力端子と接続します。
（ 17 、 18 ページ）
デジタル映像信号とデジタル音声信号が出力されます。

6　LAN端子
BD-LIVE™機能を使う場合に、ネットワーク機器をLANケーブルで接続します。（ 19 ページ）

お知らせ
- 端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気などにより、故障の原因になることがあります。
- 通風孔に異物を入れたり、ふさいだりしないでください。火災や故障の原因になります。

■ 本体表示窓

操作状況やディスクによって表示される内容は異なります。
以下は表示窓に表示される一例です。（実際の表示とイラストは異なります。）

■ リモコン

1　セットアップボタン
セットアップ画面を表示します。（34 ページ）

2　電源ボタン
電源を「入」、または本機をスタンバイ状態にします。（21 ページ）
（本機の電源を完全に切るには、電源コードを抜いてください。）

3　メディアボタン
ディスクの再生とUSBフラッシュメモリの再生を切り換えます。（23 、30 、31 ページ）

4　コントロールボタン
オンスクリーンコントロールメニューを表示します。（33 ページ）

5　リピートボタン
リピート再生の種類を設定します。（27 ページ）

6　サーチボタン
サーチメニュー画面を表示します。（27 ページ）

7　HDMIボタン
HDMI解像度を切り換えます。（17 ページ）

8　■（停止）ボタン
再生を停止します。（24 ページ）

9　|◀◀（スキップ）ボタン
再生中、一度押すことで再生しているタイトル、チャプター、トラック、またはファイルの始めに戻ります。（27 、30 ページ）

10　◀◀（早戻し）ボタン
再生中に早戻しをします。（26 ページ）

◀◀|（インスタントリプレイ）ボタン
再生中に押し続けると、約10秒前の場面へ戻ります。（26 ページ）

11　リターンボタン
一つ前の設定画面に戻ります。

12　方向ボタン
アイテムや設定を選択します。（21 、24 、34 ページ）

13　表示ボタン
再生中のメディアに関する情報を画面表示します。（27 ページ）

14　プログラムボタン＊
プログラム再生の設定画面を表示します。（29 ページ）

15　ブックマークボタン＊
ブックマークの登録/再生をします。（29 ページ）

16　このボタンは使用しません。

17　数字ボタン（0 ～ 9）
タイトル、チャプター、トラック、またはファイル番号を入力します。（27 ページ）
数値を入力します。（37 ページ）

18 トレイ開／閉ボタン
ディスクトレイを開閉します。（ 23 ページ）

19 音声ボタン
音声設定画面を表示します。（ 28 ページ）

20 字幕ボタン
字幕設定画面を表示します。（ 28 ページ）

21 アングルボタン
複数のカメラアングルによる映像が記録されているディスクの再生中、アングルを切り換えます。（ 28 ページ）

22 クリアボタン
入力した情報を消したり、プログラム再生でプログラムしたトラックやファイルを消去する場合などに使用します。（ 27 ページ）

23 A-Bボタン
A-Bリピートを設定します。（ 27 ページ）

24 PIP音声ボタン
PIP（ピクチャー・イン・ピクチャー）機能を持つブルーレイディスク ビデオの再生時、プライマリー音声とセカンダリー音声を切り換えます。（ 25 ページ）

25 PIPボタン
PIP（ピクチャー・イン・ピクチャー）機能を持つブルーレイディスク ビデオの再生時、PIP画面を表示します。（ 25 ページ）

26 ▶▶❙（スキップ）ボタン
再生中、次のタイトル、チャプター、トラック、またはファイルにスキップします。（ 27 、30 ページ）

27 ▶▶（早送り）ボタン
再生中に早送りをします。（ 26 ページ）

❙▶▶（インスタントサーチ）ボタン
再生中に押し続けると、約30秒先の場面へ進みます。（ 26 ページ）

28 ▶/❙❙（再生／一時停止）ボタン
再生またはレジューム再生します。（ 24 、25 ページ）
再生を一時停止します。（ 26 ページ）

29 ポップアップ／メニューボタン
ポップアップメニューやディスクメニューを表示します。（ 24 ページ）

30 決定ボタン
設定を決定したり、メニュー画面で項目を選択します。（ 21 、23 、24 、34 ページ）

31 トップメニューボタン
トップメニューを表示します。（ 24 ページ）

32 ダイジェストボタン*
JPEG写真表示時に、サムネイルを一覧表示します。（ 30 ページ）

33 ズームボタン*
画像を拡大・縮小します。（ 28 ページ）

34 ❙▶（スロー）ボタン
スロー再生します。押すたびに、速さが変わります。（ 26 ページ）

❙❙▶（コマ送り）ボタン
一時停止中に繰り返し押すと、1コマずつ進みます。（ 26 ページ）

* ブルーレイディスクコンテンツ内のアイテムを選択するときにも使用します。（青、赤、緑、黄）
ファイルリストまたはサムネイル画面表示中、ページを切り換えます。

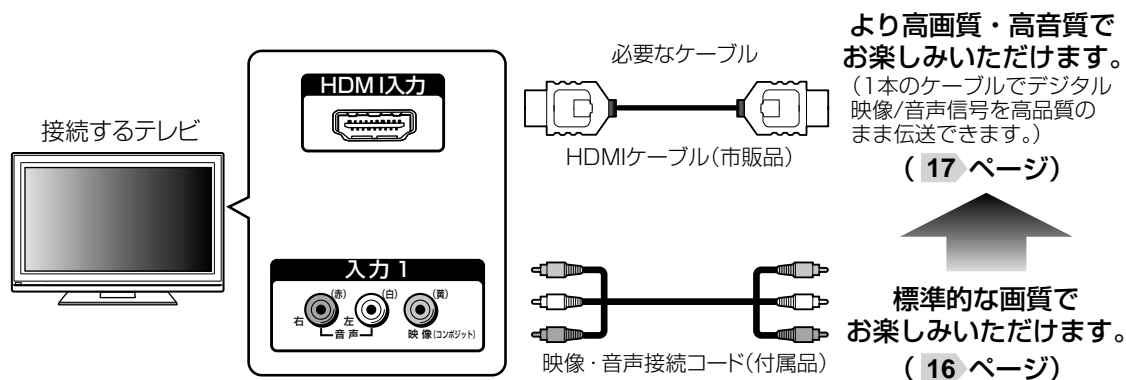
ご使用になる前に
準備する
再生する
設定
その他

接続を始める前に

- 本機の電源プラグをコンセントから抜いた状態で、各機器との接続をしてください。
- 接続する機器の電源を必ず「切」にしてください。
- 接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。

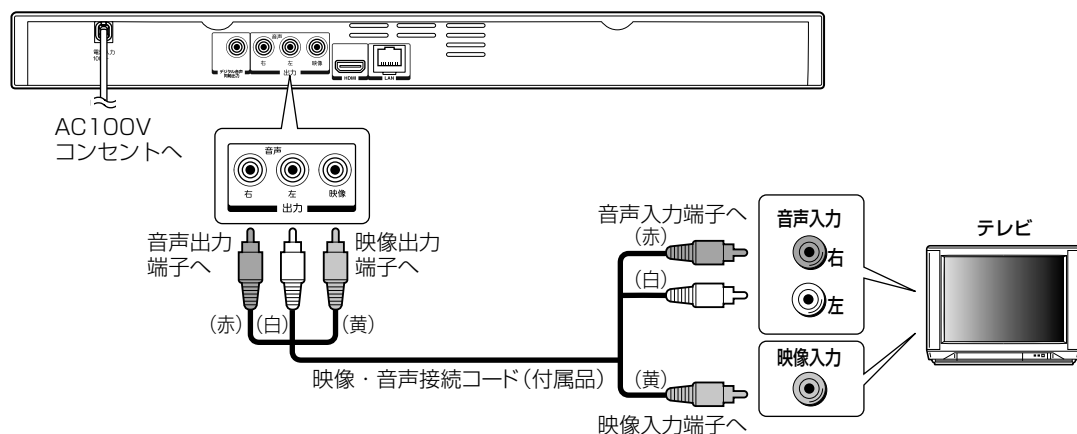
テレビと接続する

本機に接続するテレビの入力端子と画質について

本機と接続する機器の背面などにある、映像や音声の入力端子をご確認ください。映像をよりきれいにご覧いただいたり、ハイビジョン映像をそのままきれいな画質でお楽しみいただくには、HDMI入力に対応しているテレビ、モニターやプロジェクターが必要になります。**接続する機器がHDMI入力に対応しているときは、本機のHDMI端子と接続することをおすすめします。** 本機とつなぐテレビの取扱説明書も合わせてご覧ください。

本機とつなぐには、上記のような HDMI 入力または映像(コンポジット)入力の、どれかの入力端子が必要です。

ご注意
- 本機の映像出力は直接テレビに接続するか、AVアンプを経由してテレビに接続します。本機からの映像をビデオデッキ、ビデオ内蔵テレビ、セレクターなどを通してご覧になると、コピー防止機能によって正常な映像にならないことがあります。

■ 映像入力(黄)端子付きテレビとの接続

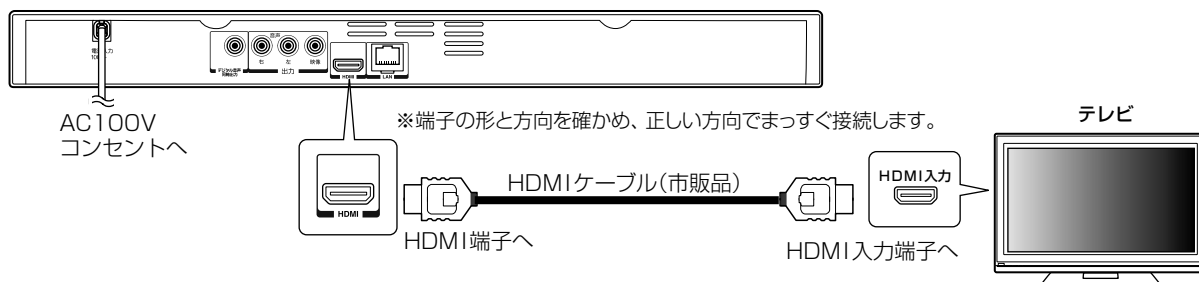
本機の映像・音声出力端子とテレビの映像・音声入力端子を、映像・音声接続コードでつなぎます。

お知らせ
- HDMI端子を同時に接続している場合、解像度設定を自動(720p以上)/ 720p / 1080i / 1080pに設定していると、映像出力端子(黄)からは映像信号が出力されません。
  映像出力端子(黄)から映像信号を出力するには、解像度設定を"480i"、"480p"に設定(17、39ページ)するか、HDMIケーブルをHDMI端子から抜いてください。

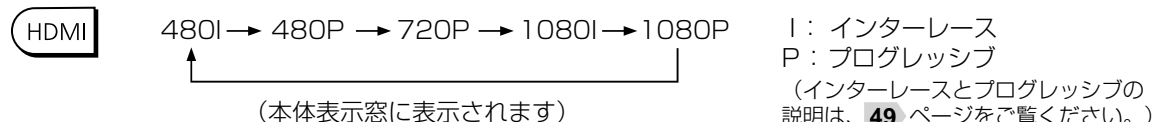
■ HDMI入力端子付きテレビとの接続

本機のHDMI端子とテレビのHDMI入力端子を、HDMIケーブルでつなぎます。
HDMIとは、デジタル家電／ AV機器間をデジタル信号でつなぐことができるインターフェイス（接続システム）です。映像と音声の両方の信号に対応していますので、１本のケーブルだけで接続することができます。

HDMI端子付き※のテレビやAVアンプと本機の間をHDMIケーブルを使って接続することで、デジタル映像／音声信号を高品質のまま伝送することができます。

※ HDCP機能に対応していない機器には接続できません。HDCP(High-bandwidth Digital Content Protection)とは、デジタル方式の画像や映像コンテンツの出力信号を暗号化し、不正コピーを防止する著作権保護技術の１つです。

当社製REGZAシリーズ（テレビ）と接続するときは、HDMI端子を使ってつなぐと「レグザリンク機能」が使えます。（レグザリンク対応品にかぎります。）レグザリンクについて詳しくは、“レグザリンク”（ 35 ページ）をご覧ください。

● **接続後は“解像度”（ 39 ページ）を設定してください。**
リモコンの[HDMI] でも解像度の設定ができます。
[HDMI] を繰り返し押すと、解像度が切り換わります。
（本機で再生中は解像度の切り換えができません。[停止]を２回押して再生を停止してから、[HDMI]で解像度を切り換えてください。）

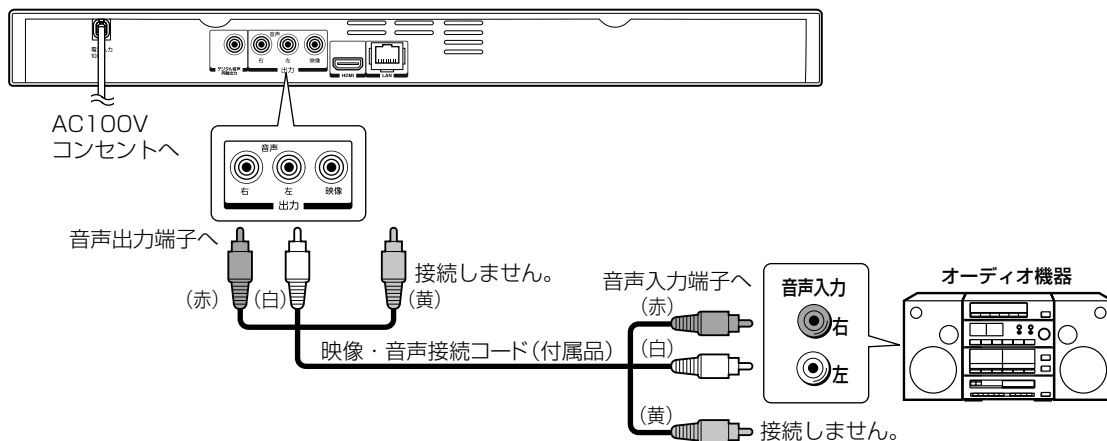
I：インターレース
P：プログレッシブ
（インターレースとプログレッシブの説明は、 49 ページをご覧ください。）

接続したテレビの最も高い解像度に合わせて設定します。
設定した解像度にテレビが対応していない場合、映像が映らなくなります。そのときは [HDMI] を押して、テレビが対応している解像度に変更してください。

お知らせ
- HDMIの信号が確認されない場合は、接続機器の電源を入れ直してみるか、HDMIケーブルを接続し直してみてください。
- HDMI出力端子は、DVIアナログには対応していません。
- 本機のHDMI出力端子では、VGAは出力しません。
- HDMIは新しい技術です。今後、HDMIの技術が進歩した場合、本機では対応できなくなることがあります。
- HDMIケーブルは、HDMIロゴ（HDMI）の表示があるケーブルをお使いください。
  1080p出力、ディープカラー出力時などは、ハイスピード（High Speed）HDMIケーブルをご使用ください。（標準HDMIケーブルでは正常に動作しないことがあります。）
- 接続するテレビの特性、映像ソースの解像度、本機の映像出力の解像度の組み合わせによっては、高い解像度の出力が最適ではないこともあります。お好みに合わせて出力の解像度を切り換えてご覧ください。
- 接続するテレビやプロジェクターによっては、音声が出ない場合があります。そのときは、“音声出力”―“HDMI”（ 41 ページ）を“PCM”に設定してください。それでも音声が出ない場合は、アナログ音声出力端子をお使いください。また、ドルビーデジタル、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS、DTS-HD, MPEGデコーダー内蔵のAVアンプにHDMI接続した場合は、“音声出力”―“HDMI”を“ビットストリーム”に設定してください。

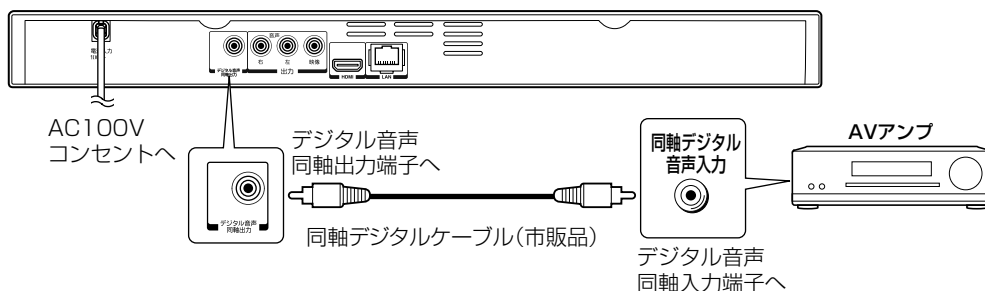
オーディオ機器と接続する

接続に関する詳しい情報は、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

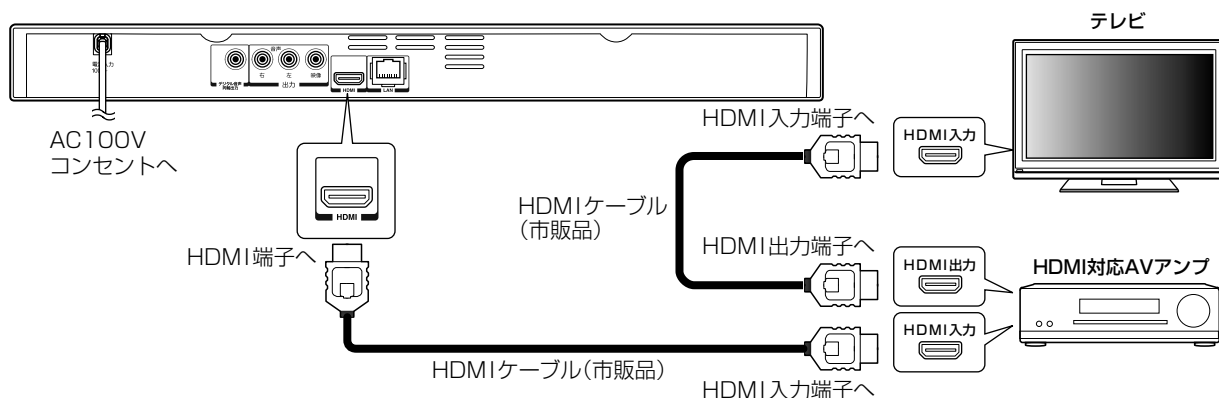
■ アナログ２チャンネル音声入力端子付きオーディオ機器との接続

本機の音声出力端子とお使いのオーディオ機器の音声入力端子を、音声コードでつなぎます。

■ AVアンプ（デジタル音声入力端子付き）との接続

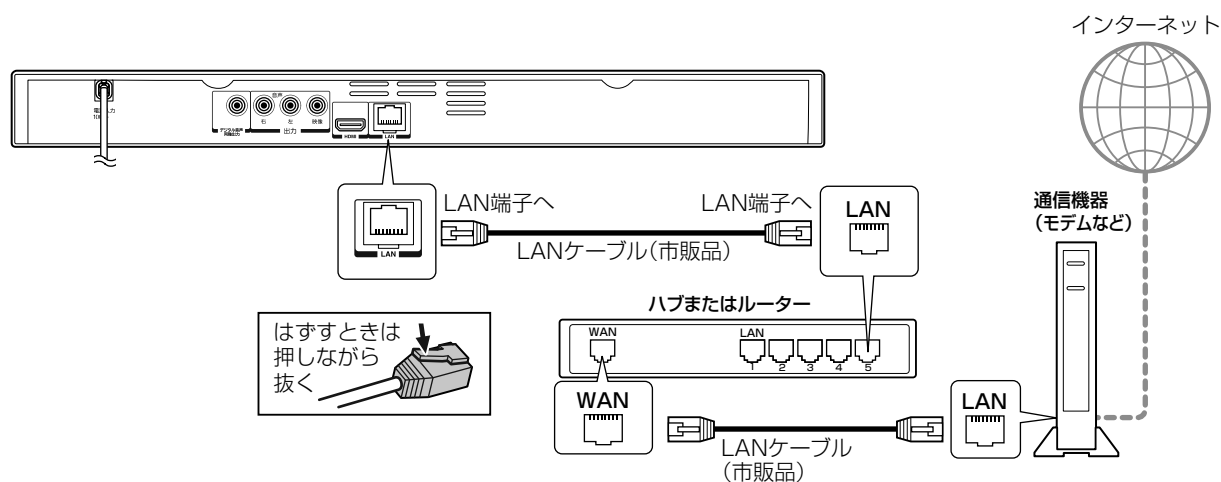
本機のデジタル音声同軸出力端子と、お使いのアンプのデジタル音声同軸入力端子を、同軸デジタルケーブルでつなぎます。ドルビーデジタルデコーダーまたはDTSデコーダー内蔵のアンプに接続することで、ドルビーデジタルやDTSの音声が収録されたディスクの再生時に、迫力と臨場感あふれるサラウンド音声をお楽しみいただけます。

● **接続後は“音声出力”―“デジタル音声出力”（ 41 ページ）の設定をしてください。**

■HDMI入力端子付きAVアンプとの接続

本機のHDMI出力端子とAVアンプのHDMI入力端子を、HDMIケーブルでつなぎます。

● **接続後は“音声出力”―“HDMI”（ 41 ページ）の設定をしてください。**

ネットワークに接続する

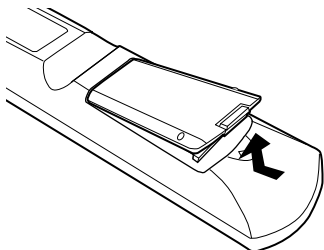
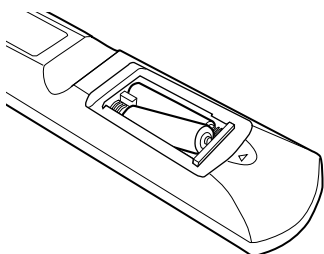
本機をインターネットに接続することで、BD-LIVE™機能を使用することができます。

● BD-LIVE™の詳細については、“BD-LIVE™”（24 ページ）をご覧ください。

お知らせ

- 詳しい接続方法については、お使いの通信機器の取扱説明書をご覧ください。
- 接続が完了したら、“ネットワーク”（38 ページ）で必要な設定をしてください。
- LAN端子にはLANケーブル（ストレートケーブル）以外のケーブルを接続しないでください。故障の原因になります。
- ルーターは通信速度が10BASE-Tまたは100BASE-TXに対応しているルーターを使用してください。（ネットワークの使用環境によって、通信速度に差が生じることがあります。本機は通信速度や通信品質を保証するものではありません。）
- 本機とパソコンのLAN端子とは直接つながないでください。故障の原因になります。
- インターネットに接続して本機能を使用するには、インターネット接続プロバイダなどとの契約が必要になります。

リモコンを準備する

■ 電池の入れかた

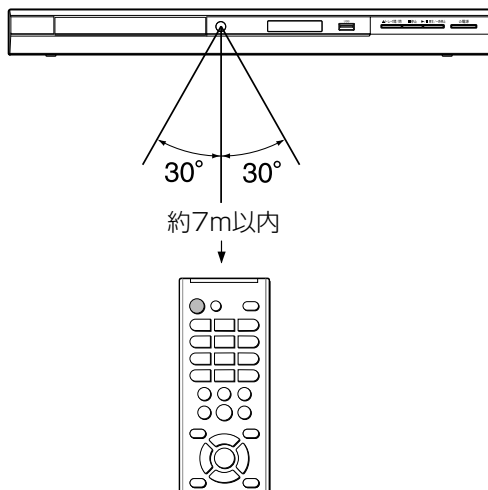
1 ふたをはずす

2 乾電池を入れる

・単四形乾電池（R03）を２個使用します。

・乾電池の＋、－を確かめてください。

3 ふたを閉める

リモコンの取扱いについて
- 落としたり、衝撃を与えないでください。
- 高温になる場所や湿度の高い場所に置かないでください。
- 水をかけたり、ぬれたものの上に置かないでください。
- 分解しないでください。

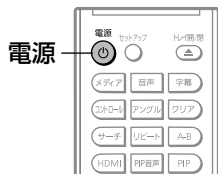
■ リモコンの操作範囲

本体のリモコン受光部に向けて以下の範囲内で操作してください。

距離：リモコン受光部正面から約7m 以内

角度：リモコン受光部から上下左右約30 度以内

お知らせ
- リモコン受光部に、太陽光や蛍光灯など強い光があたると、リモコンが動作しないことがあります。
- 受光部が見える正面の位置から操作してください。
- 動作しなかったり、到達距離が短くなったりしたときは、乾電池をすべて新しいものと交換してください。古い乾電池と新しい乾電池を同時に使わないでください。

電源を入れる

1 本体の[⏻ 電源] またはリモコンの[電源] を押して、本機の電源を入れる

2 テレビの電源を入れる

3 テレビのチャンネルを、本機を接続した外部入力（例：HDMI 1）に切り換える

詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

正しい入力に切り換えると、オープニング画面が表示されます。

はじめてお使いのときは、「はじめての設定」の画面が表示されます。右記の「基本的な機能を設定する」の手順に従って設定をしてください。

お知らせ
- HDMIケーブルを使用してテレビを接続している場合、「はじめての設定」の画面が表示されるまで少し時間がかかることがあります。

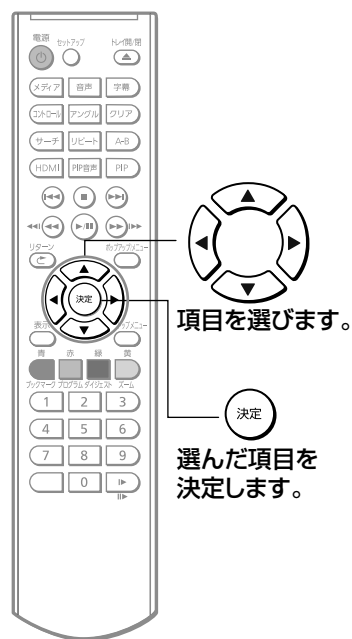
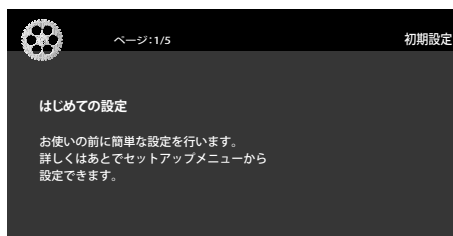
■ 電源を切るには

[電源] を押す

表示窓に“OFF” が表示されてから電源が切れます。

お知らせ
- [電源] を押して電源を切っても、本体は通電しています（待機状態）。本機の電源を完全に切るには電源プラグを抜く必要があります。
- “スクリーンセーバー” を “オン”（35ページ）に設定した状態で、約20分間何も操作をしないと自動的に電源が切れます（待機状態）。

基本的な機能を設定する

はじめてお使いのときは、以下の設定をしてください。

1 リモコンの[決定] を押す

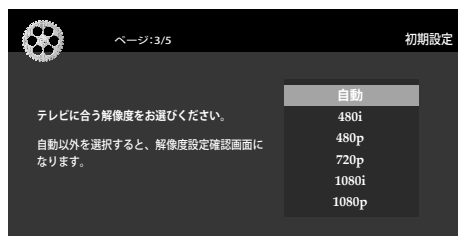
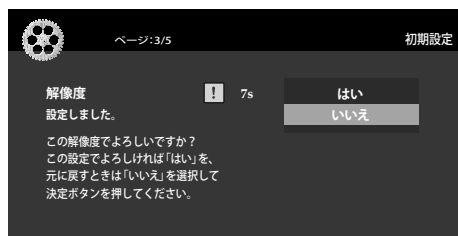
次の画面に進みます。

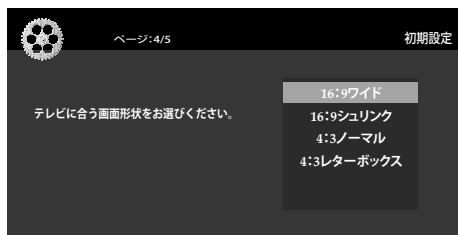
2 “日本語” が選ばれていることを確認して、[決定] を押す

（つづく）

ご使用になる前に
準備する
再生する
設定
その他

（前ページよりつづく）

3 接続したテレビの解像度を [▲/▼] で選び、[決定] を押す

- “自動” を選択すると、テレビに最も合った解像度が自動的に設定されます。
- テレビとの接続にHDMI端子と映像出力端子（黄）を同時に接続してお使いの場合は、“480i” または “480p” を選択してください。
- “自動” 以外を選択すると、解像度設定確認画面になります。接続しているテレビの最大解像度を選択してください。解像度は、テレビの取扱説明書でご確認ください。

この解像度で見たいときは “はい” を、他の解像度に変えたいときは “いいえ” を選んで [決定] を押してください。

4 接続したテレビに合わせて、画面形状を [▲/▼] で選ぶ

● **“16:9ワイド”**
16:9ワイドテレビをお使いのとき。
画面比4:3の映像は、16:9の画面いっぱいに横伸びして再生されます。

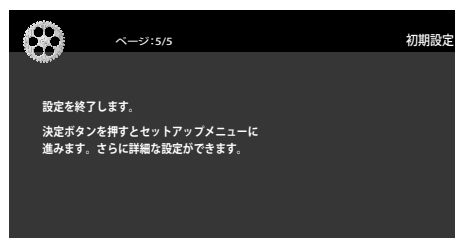
● **“16:9シュリンク”**
16:9ワイドテレビをお使いのとき。
画面比4:3の映像は、16:9の画面形状に合わせるため左右に黒い帯がつきますが、伸びは生じません。

● **“4:3ノーマル”**
従来の4:3テレビをお使いのとき。
画面比16:9の映像は、4:3の画面形状に合わせるため左右をカットし、テレビ画面全体に表示して再生されます。

● **“4:3レターボックス”**
従来の4:3テレビをお使いのとき。
画面比16:9の映像は、横長のまま表示し、上下に黒い帯をつけて再生されます。

再生するメディアによっては、この設定通りに表示されないことがあります。

5 [決定] を押す

この画面が表示され、設定は終了です。

[**決定**] を押すと、セットアップ画面が表示されます。

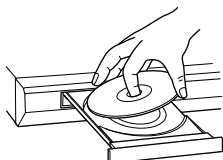
セットアップ画面では、さらに詳細な設定をすることができます。くわしくは **34** ページをご覧ください。

設定をしないで操作を始めることもできます。リモコンの [**セットアップ**] を押して、セットアップ画面を閉じてください。操作方法は、**23** ページからの「再生する」の章をご覧ください。

ディスクを入れる

1 本体の[⏏トレイ開/閉] またはリモコンの[トレイ開/閉] を押す

ディスクトレイが開きます。

2 ディスクをディスクトレイに置く

ラベル面を上にして、溝に合わせて置きます。

3 [トレイ開/閉] を押す

ディスクトレイが閉まります。

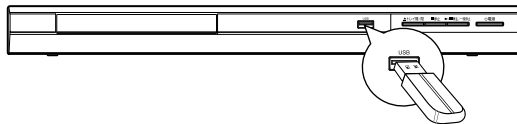
お知らせ
- ディスクトレイの出し入れは、ボタンで操作してください。また動いているディスクトレイに力を加えたり、ディスクトレイを上から強く押したりしないでください。故障の原因となります。
- 本機で再生できないディスクやディスク以外のものを、ディスクトレイに置かないでください。故障の原因となります。
- 特殊形状（ハートや星、名刺タイプなど）のディスクは入れないでください。故障の原因となります。
- 8cmディスクは、アダプターを使わず、そのままディスクトレイの溝に合わせて置いてください。

■ ディスクを取り出す

[**トレイ開/閉**] を押して、ディスクトレイが完全にあいたらディスクを取り出します。

USBフラッシュメモリを入れる

コネクターの向きを確かめ、本体前面のUSB端子にまっすぐ差し込みます。

しばらくすると、本体表示窓に"USB" と表示されます。

はずすときは、再生を停止したあと、まっすぐゆっくり抜いてください。

お知らせ
- USBフラッシュメモリ以外のUSB機器は入れないでください。
- BD-LIVE™機能を楽しむためには、ローカルストレージ（データの保管場所）として空き容量1GB以上のUSBフラッシュメモリの使用を推奨します。
- 規格に準拠したUSBフラッシュメモリでも、製品によっては本機で正常に動作しない場合もあります。

再生するメディアを選ぶ（ディスク/USBフラッシュメモリ）

本機にディスクとUSBフラッシュメモリの両方が入っているときに、再生するメディアを選択します。

停止中に、[メディア] を押す

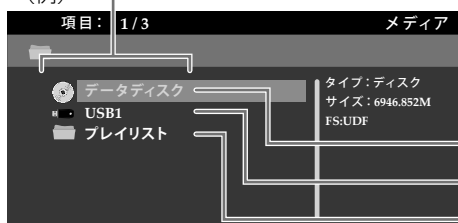
メディア

メディア画面が表示されます。

表示を消すには、もう一度 [メディア] を押します。

[▲/▼]で再生するメディアを選び、[決定]を押します。
それぞれの再生画面になります。

（例）

ご使用になる前に
準備する
再生する
設定
その他

市販のディスクを再生する

ブルーレイディスク DVD CD

市販されているブルーレイディスク、DVD、音楽用CDを再生します。

以下の操作説明は一般的な例です。使用するディスクによって操作方法は変わりますので、ディスク側の説明書もご覧ください。

1 再生するディスクを本機に入れる

自動的に再生が始まります。

再生が始まらない場合は、[▶/❚❚]を押してください。

●**トップメニューの操作方法** ブルーレイディスク DVD

トップメニューが記録されているディスクでは、最初にトップメニューが表示されることもあります。
再生中に、[**トップメニュー**]を押し、再生する内容を[▲/▼/◀/▶]で選び、[**決定**]を押してください。

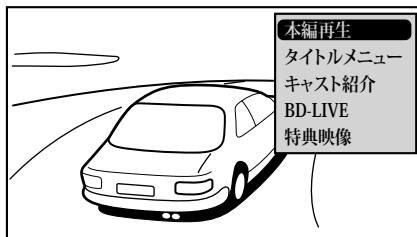
トップメニュー

再生中にトップメニューに戻りたいときは、[**トップメニュー**]を押します。

●**ポップアップメニューの操作方法** ブルーレイディスク

ポップアップメニューは再生中の映像の前面に表示されます。(最初にポップアップメニューが表示されることもあります。)
再生中に、[**ポップアップ/メニュー**]を押し、[▲/▼/◀/▶]で項目を選び、[決定]を押します。

ポップアップ/メニュー

(例)

●**ディスクメニューの操作方法** DVD

トップメニューの他にも、ディスクにメニューが記録されている場合があります。これらのメニューは、再生中に[**ポップアップ/メニュー**]を押すと表示されます。メニューの操作はトップメニューと同様に行ってください。くわしくは、ディスクの説明書をご覧ください。

2 再生を停止するには、[■]を押す

[■]を押して再生を止めた位置は、次回に続きが見られるように、本機が一時的に記憶します。くわしくは 25 ページをご覧ください。

お知らせ
- 市販のブルーレイディスクによっては、再生中自動で一時停止するものもあります。[▶/❚❚]で一時停止を解除できます。

■ BD-LIVE™ ブルーレイディスク

本機は、BD-LIVE™(BDライブ)機能付きのブルーレイディスク ビデオに対応しています。本機をインターネットに接続することで、特典映像や字幕などの追加コンテンツや、ネットワーク対戦ゲームなど、さまざまな機能を楽しめます。(内容はディスクによって変わります。)

以下の操作説明は一般的な例です。使用するディスクによって操作方法は変わりますので、ディスク側の説明書や画面表示に従って操作してください。

1 充分な空き容量(1 GB以上推奨)がある市販のUSBフラッシュメモリを、本機に入れる

- 論理フォーマット:FAT32/16 Logical format
- USB2.0 Correspondence For Local Storage

上記に準拠していても、製品によっては本機で認識されないものがあります。すべてを保証するものではありません。

2 BD-LIVE™機能付きのディスクを入れる

3 [ポップアップ/メニュー]を押す

ポップアップ/メニュー

ディスクのポップアップメニューが表示されます。

4 "BD-LIVE"を選択し、[▶/❚❚]または[決定]を押す

BD-LIVE™で映像などの情報をUSBフラッシュメモリに保存している間は、再生の操作が制限されることがあります。また、ダウンロード中に電源プラグを抜くまたは停電するなどした場合、保存中のBD-LIVE™データは失われます。そのときはBD-LIVE™データをダウンロードし直してください。

お知らせ
- BD-LIVE™機能を利用するには、本機をインターネットに接続し、必要な設定をしてください。接続のしかたについては“ネットワークに接続する”(19ページ)を、設定のしかたについては“ネットワーク”(38ページ)をご覧ください。インターネットは、ブロードバンドサービスに接続してお使いになることをおすすめします。
- ディスクによっては、“BD-LIVE接続”(38ページ)の設定を変更する必要があります。
- お使いのネットワーク環境によっては、ネットワーク接続に時間がかかったり、接続できない場合があります。
- BD-LIVE™に接続中、ページを読み込むのに時間がかかる場合があります。
- BD-LIVE™対応ディスクの再生中、本機またはディスクの識別IDがコンテンツプロバイダーに送信されることがあります。インターネット接続を制限するには、”BD-LIVE接続”(38ページ)の設定を変更してください。
- BD-LIVE™でダウンロードされた情報などは、本機に挿入したUSBフラッシュメモリに保存されます。USBフラッシュメモリの容量が足りないときは、不要なデータを削除してください。消去のしかたについては、“システム”―“BUDA”(36ページ)をご覧ください。

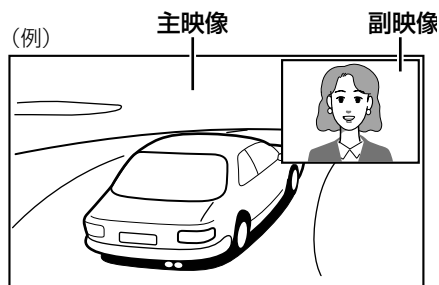
■ BONUSVIEW™ ブルーレイディスク

本機は、BONUSVIEW™（ボーナスビュー）機能付きのブルーレイディスク ビデオに対応しています。
BONUSVIEW™ディスクでは、本編以外のストーリーや解説、別のアングルや音声などのサブコンテンツを、同時進行で楽しめます。

以下の操作説明は一般的な例です。使用するディスクによって操作方法は変わりますので、ディスク側の説明書や画面表示に従って操作してください。

1 BONUSVIEW™対応のディスクの再生中に、[PIP] を押す

サブコンテンツ（副映像）が記録されている場面では、画面に"PIP" マークが表示されます。（表示設定は 36 ページをご覧ください。）

副映像が表示されます。

繰り返し押して"オフ" にすると、副映像が消えます。

2 [PIP音声] を押す

PIP音声

副映像の音声（セカンダリー音声）に切り換わります。

繰り返し押して "オフ" にすると、主映像の音声（プライマリー音声）に戻ります。

お知らせ
- 早送り/早戻しやスローなど、速さを変えて再生しているときは、副映像を表示させることはできません。
- 副映像の音声を楽しむためには、"音声出力"（41ページ）を "PCM" または "再エンコード" に設定している必要があります。
- BONUSVIEW™に対応していないブルーレイディスクもあります。事前にディスクを確認して操作してください。

続き再生（レジューム再生）機能について

再生を停止した位置を本機が記憶し、その続きから再生できる機能です。

[■] を押して再生を停止したあとに [▶/❚❚] を押すと、停止した位置から再生が始まります。

続き再生をしないで、始めから再生するときは、[■] を2回押すと、続き再生が解除されます。

- ディスクでは、以下の場合も続き再生が解除されます。
  — 視聴制限レベルが変更されたとき
  — ディスクトレイをあけたとき

お知らせ
- ディスクによって、続き再生の始まる位置が変わることがあります。
- BD-J対応ディスクは、ディスクによって続き再生機能を利用できないものがあります。

BD-R/RE、DVD-R/RWを再生する

ブルーレイディスク　DVD

以下のディスクは、この操作方法で再生してください。

- BD-R、BD-RE：
  おもにブルーレイディスクレコーダーなどで録画されたディスク（BDAV/BDMVフォーマット）
- DVD-R、DVD-RW：
  おもにDVDレコーダーなどで録画されたディスク（VRモード/AVCREC™モード）

1 上記のディスクを本機に入れる

自動的にタイトル名リストが表示されます。

ディスクの種類によっては、タイトルリストの表示前に、「フォルダー _1」と表示されることがあります。その場合には、そのまま[**決定**]を押してください。

（例）

- 録画されているタイトルが多い場合は、[⏮ / ⏭]でページが切り換わります。（[▲/▼] でも画面のスクロールができます。）

2 再生するタイトル名を[▲/▼]で選び、[決定]を押す

選んだタイトルの再生が始まります。

■ タイトル名リストを再表示するには

再生中に、[**トップメニュー**]を押す

- 停止中から表示させるときには、一度[▶/❚❚]を押してください。

お知らせ

- ビデオモードやAVCHDで録画されたDVD-R/RWディスクは、「市販のディスクを再生する」（24ページ）と同じ操作で再生できます。
- タイトル名は、すべての文字が表示できるとは限りません。

再生中に使える機能

ディスクの種類や記録状態によって働かない機能もあります。

■ 再生を一時停止する

[▶/❚❚]を押す

- 通常の再生に戻すには、もう一度[▶/❚❚]を押します。

■ 早送り / 早戻しする

再生中に、[▶▶]（早送り）または[◀◀]（早戻し）を押す

- 繰り返し押すと速さが変わります。
- 音声は再生されません。
- 通常の再生に戻すには、[▶/❚❚]を押します。

■ 少し前へ戻る（インスタントリプレイ）

再生中に、[◀◀]を押し続ける

画面に“ ◀◀❚ ”が表示され、約10秒前に戻ります。

■ 少し先へ飛び越す（インスタントサーチ）

再生中に、[▶▶]を押し続ける

画面に“ ❚▶▶ ”が表示され、約30秒先の場面へ進みます。

■ スローモーションで再生する

再生中に、[❚▶]を押す

- 繰り返し押すと速さが変わります。
- 音声は再生されません。
- 通常の再生に戻すには、[▶/❚❚]を押します。

■ コマ送りする

1 [▶/❚❚]を押して再生を一時停止させる

2 [❚❚▶]を繰り返し押す

- 通常の再生に戻すには、[▶/❚❚]を押します。

■ 前後へスキップする

[▶▶|]（進む方向）または [|◀◀]（戻る方向）を繰り返し押す

[▶▶|]：1つ先のチャプター / トラック / ファイルの先頭から再生します。

[|◀◀]：1回押すと、現在のチャプター / トラック / ファイルの先頭に戻ります。2度続けて押すと1つ前の先頭まで戻ります。

■ 繰り返し再生する

（市販のBD-Jでは機能しません。）

[**リピート**]を繰り返し押して、リピートの種類を選ぶ

ディスクの種類によってリピートの種類が異なります。

ブルーレイディスク DVD

同じチャプターを繰り返し再生します。

同じタイトルを繰り返し再生します。

ディスク全体を繰り返し再生します。

CD

同じトラックを繰り返し再生します。

ディスク全体を繰り返し再生します。

- 現在のチャプター / トラック / ファイルの再生が終わったら、選んだモードで、リピート再生が始まります。
- 通常の再生に戻すには、[リピート] を繰り返し押してリピートマークを消します。

■ 範囲を指定して繰り返す（A-Bリピート再生）

1 繰り返す部分の始点で、[**A-B**] を押す

“A – ” が表示されます。

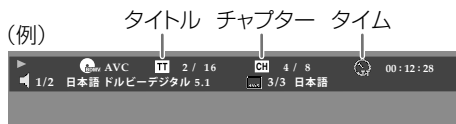
2 繰り返す部分の終点で、もう一度 [**A-B**] を押す

指定したA-B間をリピート再生します。

- 通常の再生に戻すには、もう一度[A-B]を押します。“A-B” の表示が消えます。
- ディスクの種類によってはA-Bリピート再生が働きません。

■ 見たい場面を探す

1 [**サーチ**] を押す

2 [◀/▶]で、“ TT （タイトル）”、“ CH （チャプター）”、“ （タイム）” のどれかを選び、[**決定**] を押す

- “タイム” を選んでいるときに [▲/▼] を押すと、タイトルとチャプターに切り換えられます。

3 [▲/▼] で数字を入力する（数字ボタンも使えます）

“ TT ”：タイトル番号

“ CH ”：チャプター番号

“ ”：タイトルまたはチャプターの経過時間

入力し直すときは、[**クリア**] を押します。

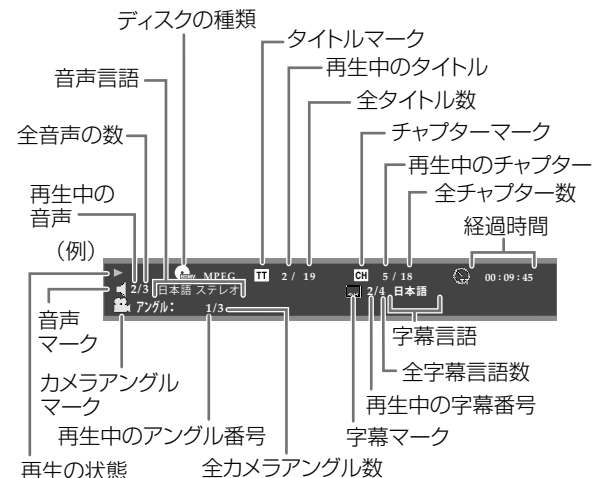
4 [**決定**] を押す

指定したところから再生が始まります。

- 表示を消すには [表示] を押します。
- ディスクの種類や記録されている状態によって、表示される画面が異なります。
- タイトル番号の記録されていないディスクでは、タイトル番号を指定することはできません。
- ディスクや場面によっては、経過時間を使って場面を探すことができない場合があります。

■ 再生の状態を確認する

[**表示**] を押す

ディスクの種類によって、表示内容が変わります。

- 表示を消すには、もう一度 [表示] を押します。

■ アングルを切り換える

ブルーレイディスク DVD

複数のカメラアングル（マルチアングル）で記録されている場面の再生中に、［**アングル**］を繰り返し押して、アングルを選ぶ

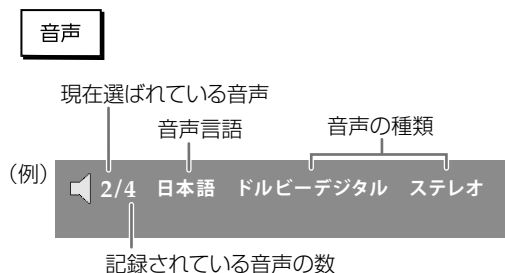
マルチアングルのシーンでは、画面にマークが表示されます。表示しないように設定することもできます。（36 ページ）

- マルチアングルで記録されていないディスクや場面では、アングルの切り換えはできません。
- アングルを選んでから、実際に画像のアングルが切り換わるまでには、少し時間がかかります。
- アングルを選んだ直後に一時停止させたときは、画像のアングルが切り換わらないことがあります。
- マルチアングルのディスクによっては、特殊再生（たとえば、早送り、早戻し、スローなど）が禁止される場合もあります。

■ 音声を切り換える

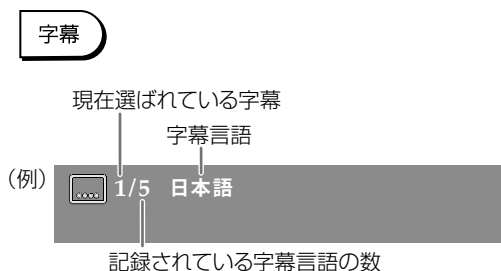
ブルーレイディスク DVD

再生中に、［**音声**］を繰り返し押して、音声を選ぶ

音声

- 優先して聞きたい言語をあらかじめ設定しておけます。（36 ページ）
- ディスクによっては、音声の切換えをディスクメニューを使って行う場合があります。このときは、［ポップアップ/メニュー］を押してディスクメニューを表示させてから音声を選んでください。
- 複数の音声が記録されていないディスクもあります。そのときは、音声の切換えはできません。

■ 字幕を切り換える

ブルーレイディスク DVD

再生中に、［**字幕**］を繰り返し押して、字幕言語を選ぶ

- 字幕を消すには、“オフ” に設定します。
- 優先して表示させたい言語をあらかじめ設定しておけます。（36 ページ）
- 字幕が記録されていないディスクもあります。
- 再生している場面によっては、字幕言語を切り換えても、すぐには切り換えた言語の字幕が表示されないことがあります。
- ディスクによっては、字幕が自動的に表示されるように設定されているものがあります。また、字幕機能をオフに設定しても、非表示にできない場合があります。
- ディスクによっては、字幕の言語や表示、非表示の切換えをディスクメニューを使って選ぶ場合があります。

■ 拡大・縮小する（ズーム再生）

ブルーレイディスク DVD

再生中に、［**ズーム**］を押す

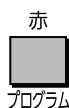
2倍→3倍→4倍→1/2倍→1/3倍→1/4倍→等倍の順で倍率が変わります。

ズーム画で［▲/▼/◀/▶］を押すと、ズーム位置が変えられます。

- ディスクの種類や場面によってはズーム再生ができないことがあります。
- 字幕やメニューの選択表示（マーク）などの副映像部分や画面表示部分は拡大されません。

■ 好きな順番で再生する（プログラム再生）

ブルーレイディスク DVD CD

1 **再生中に、［プログラム］を押す**

プログラム画面が表示されます。

2 **はじめてプログラム入力するときは、そのまま［決定］を押す**

3 **再生するタイトル（TT）番号を［▲/▼］で選ぶ**

（例）

4 **［▶］でチャプター（CH）番号に移動し、［▲/▼］で再生するチャプターを選び、［決定］を押す**

（例）

- 他のプログラムを入力する場合は、手順２～４を繰り返してください。
- プログラム内容を修正する場合は、修正するプログラムを選び、［決定］を押したあとで、内容を修正してください。
- プログラムを消すときは、消すプログラム番号を選び、［クリア］を押します。
- プログラムをすべて取り消すときは、［リターン］を押します。
- 音楽用CDのときは、トラック番号を入力します。

5 **［ ▶/❚❚ ］を押す**

プログラム再生が始まります。

- プログラム再生を中止するときは、［■］を２回押してください。

■ 見たい場面を登録する（ブックマーク）

ブルーレイディスク DVD

ブックマークを登録する

ブックマークを登録する箇所で、［**ブックマーク**］を押す

12箇所まで登録できます。登録数がいっぱいのときは、“⃠”が表示されます。

登録した箇所を再生する

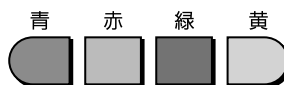
1 **［ブックマーク］を押し続ける**

ブックマークが一覧表示されます。

2 **［◀/▶］で再生するブックマークを選び、［決定］を押す**

登録したブックマークから再生が始まります。

ブックマークを消すときは、ブックマークを選んで、［**クリア**］を押してください。

お知らせ
- ディスクの種類や場面によっては、ブックマーク登録できないことがあります。
- 以下の場合などは、ブックマークが解除されます。
  — 電源を切ったとき
  — ディスクトレイをあけたとき

ボタンについて

ブルーレイディスクなど、ディスクによって使用するボタンが決められている場合があります。
ディスク側の説明書や画面に表示される内容に従って操作してください。

動画・音楽ファイル / 写真を再生する

ブルーレイディスク DVD CD USB

以下のファイルの再生に対応しています。

動画ファイル： AVCHD
音楽ファイル： MP3
写真ファイル： JPEG
記録メディア： BD-R、BD-RE
（3 ページ） DVD-R、DVD-R DL、DVD-RW
CD-R、CD-RW
USB フラッシュメモリ (MP3/JPEG)

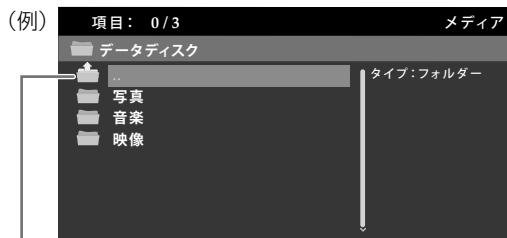
- 記録状態などによって、再生できないファイルもあります。すべてのファイル再生を保証するものではありません。
- できない操作は画面に“ ⃠ ”が表示されます。

1 ファイルが記録されているディスクまたはUSB フラッシュメモリを本機に入れる

くわしくは、23 ページをご覧ください。

2 再生するファイルの種類を[▲/▼] で選び、[決定] を押す

例：ディスクを入れた場合は、以下の画面が自動的に表示されます。（ディスクの種類で変わります。画面が自動的に表示されない場合は［メディア］を押してください。）

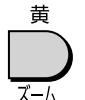
（例）

USBフラッシュメモリを同時に入れている状態で、“ .. ”を選んで [決定] を押すと、メディアを選択する画面 (トップ画面) が表示されます。

ディスクを再生します。
USBフラッシュメモリを再生します。

- 再生するメディアを[▲/▼]で選び、[決定]を押します。
- メディア画面は[メディア]を押しても表示できます。

メディア

- 表示を消すときは[メディア] をもう一度押します。

3 選んだファイルの種類によって、以下の操作をする

● **“写真” を選んで[決定] を押したとき**

画面の左側に写真のファイル名、右側にファイルの情報が表示されます。
再生する写真を[▲/▼] で選び、[決定] を押してください。
選んだ写真からスライドショーが始まります。

以下のボタン操作ができます。（ファイルの記録状態で内容は変わります。）

	スライドショー中に押すと、スライドショー間隔（写真の切り換わる速さ）を３段階で変更できます。
	スライドショー中に押すと、静止画になります。 もう一度押すと、スライドショーに戻ります。
	静止画で押すと、前または次の写真に切り換わります。
	スライドショー中または静止画で押すと、静止画状態で写真の表示方向が変えられます。 ▶：押すたびに時計回りに90°ずつ回転します。 ◀：押すたびに、反時計回りに90°ずつ回転します。 ▲：押すたびに上下に反転します。 ▼：押すたびに左右に反転します。 [決定] または [▶/❚❚] で、スライドショーに戻ります。
黄 ズーム	スライドショー中または静止画で押すと、静止画状態でズーム画になります。 押すたびに倍率が変わります。 ズーム画で[▲/▼/◀/▶]を押すと、ズーム位置が変えられます。 [決定] または [▶/❚❚] で、スライドショーに戻ります。
緑 ダイジェスト	サムネイル一覧が表示されます。 • [▲/▼/◀/▶] で表示する写真を選び [決定] を押すと、選んだ写真からスライドショーが始まります。 • 前後のページに移動するには [❙◀◀] または [▶▶❙] を押します。 • サムネイル表示をやめるには、もう一度 [ダイジェスト] を押します。
	表示が終わります。

● “音楽” を選んで[決定] を押したとき

画面の左側に曲のファイル名、右側にファイルの情報が表示されます。
再生する曲を[▲/▼] で選び、[**決定**] を押してください。
選んだ曲から再生が始まります。

以下のボタン操作ができます。（ファイルの記録状態で内容は変わります。）

▶/II	再生が一時停止します。 もう一度押すと、再生が再開します。
⏮ / ⏭	⏭：一つ先の曲にスキップ ⏮：現在の曲の先頭に戻る ２回続けて押すと、一つ前の曲にスキップします。
◀◀I ◀◀ / ▶▶ I▶▶	早戻し/早送り再生します。 繰り返し押すと、速さが変わります。 [▶/II] で、通常の再生に戻ります。
■	再生が停止します。 ２回押すと、メディア画面に戻ります。

● “映像” を選んで[決定] を押したとき

画面の左側に映像のファイル名、右側にファイルの情報が表示されます。
再生する映像を[▲/▼] で選び、[**決定**] を押してください。
選んだ映像から再生が始まります。

再生操作は、26 ページ～ 29 ページをご覧ください。ファイルの記録状態によって動作しない機能もあります。そのときは画面に[⃠]が表示されます。

[■]を２回押すと、再生を停止してメディア画面に戻ります。

4 メディア画面を消すときは、[メディア] を押す

お知らせ
- 再生するファイルは、リモコンの番号ボタンで選択することもできます。

■ プレイリストについて

プレイリストとは、記録されているファイル自体に加工をすることなく、架空に自分の好きなアルバムを作成することをいいます。
たとえば、音楽ファイルが20曲記録されている中から、よく聴く12曲を選んで１つのアルバムとして登録して再生することができます。

プレイリストの作成

以下の説明は音楽ファイルを例にしています。
映像ファイルや写真ファイルでも、同じようにプレイリストが作成できます。

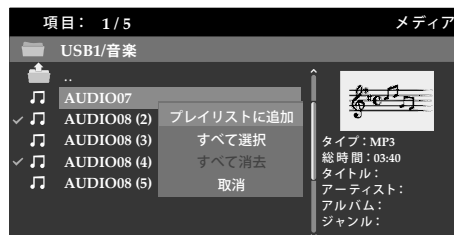
1 [**メディア**] を押す

メディアの選択画面が表示されます。

プレイリストを作成するメディアを [▲/▼] で選び、[決定] を押します。

2 プレイリストに入れたい曲を [▲/▼] で選び、[▶] を押す

- 選択した曲に“ ✔ ” がつきます。

3 [ポップアップメニュー] を押し、“プレイリストに追加” を[▲/▼] で選び、[**決定**] を押す

（例）
選択した曲がプレイリストに追加されます。

- すべての曲を選択するときは、“すべて選択” を選び、[決定] を押します。
  全曲に“ ✔ ” がつきます。
  さらに [ポップアップ/メニュー] を押して、“プレイリストに追加” を選び、[決定] を押します。
  全曲が、プレイリストに登録されます。
- プレイリストの登録は最大100個までです。
- ディスクまたはUSBフラッシュメモリを本機から取り出したときは、作成したプレイリストは消去されます。

プレイリストの再生

1 [**メディア**] を押す

2 メディアの選択画面（トップ画面）で、“プレイリスト” を[▲/▼] で選び、[**決定**] を押す

3 本例では “音楽” を[▲/▼] で選び、[**決定**] を押す

プレイリストの内容が表示されます。

4 曲を[▲/▼] で選び、[**決定**] を押して再生を始める

- プレイリストの編集は、ファイル一覧で [ポップアップ/メニュー] を押し、画面に表示される項目を選んで行ってください。

ご使用になる前に
準備する
再生する
設定
その他

MP3ファイルの再生対応条件

サンプリング周波数	32kHz、44.1kHz、48kHz
ビットレート	8kbps ～ 320kbps（CBR）
フォーマット	Mode 1、Mode 2 XA Form1
ファイル名	拡張子「mp3」が付け加えられていること。 “?!><+*}{`[@]:;¥ /.,” など、特殊な文字が使われていないこと。 （例「○○○○○○○○.mp3」）

JPEGファイルの再生対応条件

ファイル名	拡張子「JPG」が付け加えられていること。 “?!><+*}{`[@]:;¥ /.,” など、特殊な文字が使われていないこと。 （例「○○○○○○○○.JPG」）
ファイルサイズ	10Mバイト以下
フォーマット	BASELINE、PROGRESSIVE
解像度	Baseline JPEG： 最大5760×4320 Progressive JPEG： 最大5760×4320

お知らせ

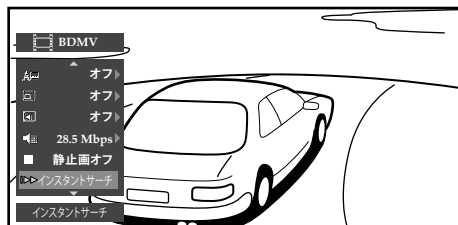
- 対応または動作確認済みのメディアでも、状態などによっては動作しない場合があります。
- ファイルサイズによっては、画像の一部が表示されないことがあります。
- 表示可能な文字数は、ファイル名、フォルダ名ともに512文字までです。
- ファイル名、フォルダ名は、すべての文字が表示できるとは限りません。
- フォルダの総数1000以上のディスクは再生できません。

操作パネルで操作する(オンスクリーンコントロール)

ブルーレイディスク DVD CD USB

画面に操作パネルを表示します。
[▲/▼/◀/▶] と [決定] だけでさまざまな機能が操作できます。

再生中に、[**コントロール**] を押す

(例)

• 操作項目は [▲/▼] でスクロールします。

以下の表は操作の一例です。ディスクの種類や記録状態によって項目や設定内容は変わります。画面の表示に従って操作してください。

マーク	意味	表示の内容と操作(各項目で [決定] を押す)
	ファイル	**再生中のファイル番号/再生できる総ファイル数** [▲/▼] で、再生するファイル番号を選び、[決定] を押します。
TT	タイトル(タイトルサーチ)	**再生中のタイトル番号/総タイトル数** [▲/▼] で、再生するタイトル番号を選び、[決定] を押します。
CH	チャプター(チャプターサーチ)	**再生中のチャプター番号/総チャプター数** [▲/▼] で、再生するチャプター番号を選び、[決定] を押します。
	時間	**タイトル/チャプターの経過時間** **タイトル/チャプターの残時間** [▲/▼] で表示を切り換えます。 : タイトルの経過時間 : チャプターの経過時間 : タイトルの残時間 : チャプターの残時間
▶	モード	**再生状態** [▲/▼]で、再生モードを選び、[決定] を押します。 ノーマル: 通常再生 シャッフル: 同じファイル(曲)を選ばず順番を入れ替えて再生 ランダム: 同じファイル(曲)を選ぶこともあります。
	音声	**ディスクに記録されている音声言語** [▲/▼] で聞きたい音声言語を選び、[決定] を押します。
	アングル	**現在のカメラアングル番号/カメラアングルの総数** [▲/▼] でアングルを選び、[決定] を押します。

マーク	意味	表示の内容と操作(各項目で [決定] を押す)
	字幕	**字幕言語** [▲/▼] で、ディスクに記録されている字幕から見たい言語の字幕を選び、[決定] を押します。
	字幕タイプ	**追加コンテンツ** 再生するブルーレイディスクに追加コンテンツがない場合は "オフ" が表示されます。
	副映像	**ピクチャー・イン・ピクチャー(副映像)** [▲/▼] で、副映像を選び、[決定] を押します。
	副音声	**副音声** [▲/▼] で、副音声を選び、[決定] を押します。
	ビットレート	**映像と音声のビットレート** [▲/▼] で、表示するレートを選び、[決定] を押します。 : 音声のビットレート : 映像のビットレート : 副音声のビットレート : 副映像のビットレート
■ 静止画オフ		特定の場面で静止するようプログラムされているディスクで、静止画を解除して再生を続けるときに選びます。
インスタントサーチ		[決定]を押すと、約30秒先へ進みます。
インスタントリプレイ		[決定]を押すと、約10秒前へ戻ります。

• オンスクリーンコントロールメニューを消すには、もう一度 [**コントロール**] を押します。

基本の手順

本機の設定をお好みに合わせて変えられます。

以下が基本の手順です。各画面下部に表示される操作ガイドも参照してください。

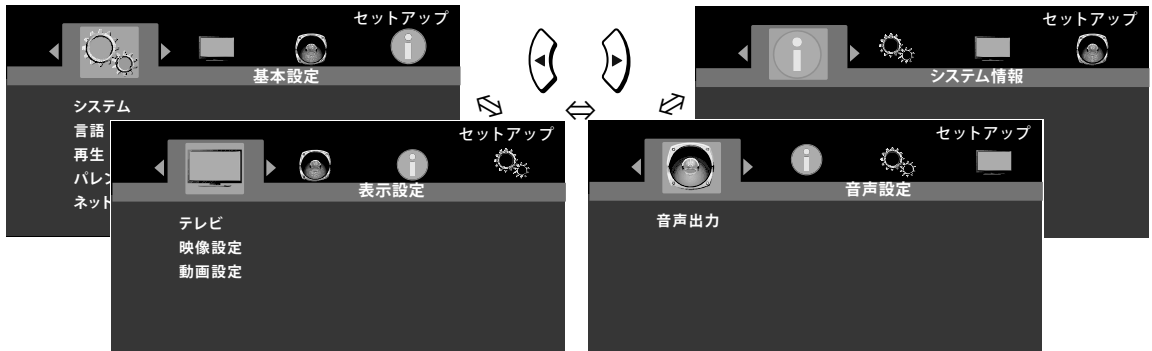
1 停止中に、[セットアップ] を押す

セットアップ画面が表示されます。

2 [◀/▶] で、設定の種類を選ぶ

種類と設定項目は、それぞれ以下のページをご覧ください。

— — 基本設定 — —　（35 ページ）
— — 表示設定 — —　（39 ページ）
— — 音声設定 — —　（41 ページ）
— — システム情報 — —　（43 ページ）

例:

3 設定する項目を[▲/▼] で選び、[▶] を押す

設定項目にカーソルが移動します。

・他の項目に戻りたいときは、[◀] を押します。

4 [▲/▼] で設定内容を選び、[▶] を押す

設定する内容の詳細は、[▲/▼] または数字ボタンで操作します。

5 [決定] を押す

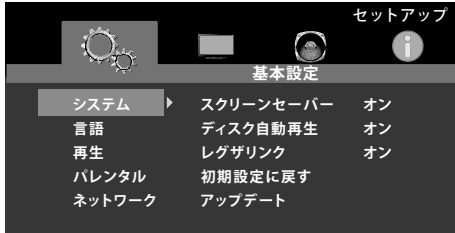
設定が保存されます。

6 [セットアップ] を押して、セットアップ画面を閉じる

設定は完了です。

お知らせ

- 再生中には設定できない項目があります。また、本機や接続機器の状態において利用できない項目は灰色で表示され、選択することができません。
- 停止中に設定するときは、続き再生を解除（[■] を２回押す）した状態で行ってください。

基本設定

• 設定項目は[▲/▼] でスクロールします。

<table>
<tr><th colspan="2">設定項目</th><th>設定内容の詳細</th></tr>
<tr><td colspan="3">■ システム
本機のオプション機能を、お好みで設定します。</td></tr>
<tr><td rowspan="9"></td><td rowspan="2">スクリーンセーバー
無操作の状態が約５分間続くと、テレビの画面の焼き付きを防ぐため、スクリーンセーバーが自動的に作動します。
※画面の焼き付きを防ぐことを保証するものではありません。</td><td>オン
スクリーンセーバーが働きます。
解除するときは、本体かリモコンのボタンのどれかを押してください。</td></tr>
<tr><td>オフ
スクリーンセーバーは働きません。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ディスク自動再生
ディスクを入れると自動的に再生を始める機能です。</td><td>オン
ディスクの再生が自動的に始まります。</td></tr>
<tr><td>オフ
この機能は働きません。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">レグザリンク
本機とテレビをHDMIケーブルで接続することで、テレビとの連動操作が可能になる機能です。（レグザリンク）
詳しい操作については、テレビの取扱説明書もご覧ください。</td><td>オン
本機が電源オフ（待機状態）のときに以下のボタンを押すと、接続したテレビ（レグザリンク対応品）の電源が自動的にはいり、テレビの入力が、接続した本機の入力に切り換わります。
［電源］/［▶/❚❚］
・テレビの電源を切ると、本機の電源も切れます。

HDMI連動機能とは、HDMI CEC（Consumer Electronics Control）を使用したHDMIで規格化されているテレビなどを制御するための機能です。CEC規格に準拠した機器と接続したときは、一部の連動動作が行えますが、当社対応品以外については動作を保証するものではありません。</td></tr>
<tr><td>オフ
レグザリンク機能は働きません。</td></tr>
<tr><td>初期設定に戻す
設定をすべてお買い上げ時の状態に戻します。</td><td>1 “初期設定に戻す” で、［決定］を押す

2 ［◀/▶］で “決定” を選び、［決定］を押してください。
初期設定の読み込みが始まります。終了するまでお待ちください。

終了すると、お買い上げ時と同じ、“はじめての設定” の画面が表示されます。
画面の表示に従って設定をしてください。
くわしくは、「基本的な機能を設定する」（21 ページ）をご覧ください。

• 初期設定に戻さないときは、［◀/▶］で “取消” を選び、［決定］を押してください。</td></tr>
</table>

（つづく）

（前ページよりつづく）

	設定項目	設定内容の詳細
	アップデート 性能の向上のため、本機のファームウェア（プログラム）を最新のものにするアップデート機能を実行します。 “ディスク自動再生”を“オフ”に設定した状態では、ディスクを入れてもアップデートは始まりません。このときは、アップデートプログラムのはいったディスクを本機に入れてから、セットアップ画面を開き、この項目を選んでください。	アップデートプログラムのはいったディスクまたはUSBフラッシュメモリを準備し、どちらかを本機に入れます。 **ディスク**：　ディスクからアップデートをします。 **USB**：　USBフラッシュメモリからアップデートをします。 画面の表示に従って操作し、アップデートを始めます。 アップデートが終了すると、自動的に本機が再起動します。 **お知らせ** • アップデートプログラムが認証に失敗すると、エラーメッセージが表示されます。内容に不足がないかなど、プログラムをよくご確認ください。 • アップデートプログラムは常に最新のものを確認してお使いください。 • USBフラッシュメモリをお使いのときは、「UPG_ALL」というフォルダ名でプログラムを保存してください。 • 最新のファームウェアのアップデートに関しては、 http://www.toshiba.co.jp/regza/bd_dvd/ 東芝ブルーレイ／ DVD＜レグザ＞お客様サポートページをご覧ください。
	BUDA BD-LIVE™機能を楽しむためには、1GB以上の空き容量があるUSBフラッシュメモリを本機に入れておくことを推奨します。本機にUSBフラッシュメモリを入れると、自動的にBUDAと呼ばれるディレクトリが作られます。 BD-LIVE™でダウンロードされた情報などは、このディレクトリ内に保存されます。 空き容量は、“BUDA情報”で確認できます。	1 “BUDA”で、［決定］を押す 2 “BUDA情報”を選び、［決定］を押す 空き容量が表示されます。 （例） ● BUDA情報を消去するには “BUDA消去”を選び、［決定］を押します。
■ 言語 画面表示や再生音声などの言語を選びます。 ディスクによっては、ディスク側で決められている言語で再生されます。		
	画面表示	画面表示に使いたい言語を選びます。
	ディスクメニュー	ディスクに記録されているメニュー言語のなかから、優先して使いたい言語を選びます。
	音声	ディスクに記録されている音声言語のなかから、優先して聞きたい言語を選びます。
	字幕	ディスクに記録されている字幕言語のなかから、優先して表示させたい言語を選びます。字幕を表示させないときは、“オフ”を選びます。
■ 再生 再生操作に関する機能を設定します。		
	アングル 複数のカメラアングルで記録された場面を再生中に、アングルマークで示すことができます。	**オン** アングルマークを表示します。
		オフ アングルマークを表示しません。
	PIP 同時に主と副（子画面）の2画面が楽しめるPIP（ピクチャー･イン･ピクチャー）機能が使える場面を再生中に、PIPマークで示すことができます。	**オン** PIPマークを表示します。
		オフ PIPマークを表示しません。

<table>
<tr><th colspan="2">設定項目</th><th>設定内容の詳細</th></tr>
<tr><td rowspan="8"></td><td rowspan="2">副音声
副音声が使える場面を再生中に、副音声マークで示すことができます。</td><td>オン
副音声マークを表示します。</td></tr>
<tr><td>オフ
副音声マークを表示しません。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ラストメモリー
ディスクの再生後にディスクトレイをあけたり、再生中に電源を切ると、再生の止まった場所を記憶し、次の再生を止めた場所から始める機能です。（ディスクの種類によってはこの機能は働きません。）</td><td>オン
ラストメモリー機能が働きます。</td></tr>
<tr><td>オフ
この機能は働きません。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">PBC
PBC2.0のビデオCDでは、PBCのメニュー機能が楽しめます。</td><td>オン
メニューが表示されます。数字ボタンで機能を選んでください。</td></tr>
<tr><td>オフ
メニューは表示されず、トラック1から再生が始まります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">クローズドキャプション
聴覚障害者用の字幕（クローズドキャプション）が記録されているディスクのとき、この字幕を表示させます。</td><td>オン
クローズドキャプションを表示します。</td></tr>
<tr><td>オフ
クローズドキャプションを表示しません。</td></tr>
<tr><td colspan="3">■ パレンタル
視聴制限を設定します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td>パスワード変更
視聴制限の設定には、パスワードが必要です。最初にお使いのときや、パスワードを変更するときに、この項目を選んでください。</td><td>1 “パスワード変更”で、［決定］を押す

2 数字ボタンで、4けたの数字（パスワード）を入力する
• はじめてお使いになるときは、「0000」が出荷時設定されていますので「0000」と入力してください。
3 新しいパスワードを入力する
4 確認のため、新しいパスワードを、もう一度入力する

• 設定した暗証番号を忘れてしまった場合、手順1で「0000」を入力すると、暗証番号を解除することができます。</td></tr>
<tr><td>国/地域
お住まいの国/地域に合った内容が再生されるように設定できます。</td><td>数字ボタンでパスワードを入力してから、［▲/▼］で国/地域を選び、［決定］を押してください。</td></tr>
</table>

（つづく）

（前ページよりつづく）

<table>
<tr><th>設定項目</th><th>設定内容の詳細</th></tr>
<tr><td>視聴制限
子供に不向きなソフトなどの視聴制限レベルを設定します。（パレンタルロック）

パレンタルロックに対応したディスクには、あらかじめ規制レベルが設定されています。規制レベルの内容および規制方法はディスクによって異なります。たとえばディスク全体が再生できない場合のほか、過激な暴力シーンをカットしたり、別のシーンに自動的に差し換えて再生されます。ディスクによっては、パレンタルロックに対応しているかどうかの区別がつきにくいものがあります。必ず、設定したパレンタルロックの機能が働くことを確認してください。</td><td>1 “視聴制限” で、[決定] を押す
2 パスワード入力画面で、数字ボタンでパスワードを入力する
はじめてお使いになるときは、「0000」を入力してください。
3 [▲/▼] で制限レベルを選ぶ
選んだ規制レベルより上のレベルのディスクは、パレンタルロックの設定レベルを再生できるレベルに変更しないかぎり、再生できなくなります。
たとえば、レベル7を設定すると、レベル8以上はロックされ再生できなくなります。

以下はアメリカの規制レベルです。
<table><tr><th></th><th>設定値</th></tr><tr><td>厳しい
↑
本機の再生の制限
↓
緩やか</td><td>[1] 子供向け
[2] G
[3] PG
[4] PG-13
[5] PGR
[6] R
[7] NC-17
[8] 成人向け</td></tr></table>
アメリカ以外のレベルは、将来のために用意されたものです。適切な設定レベルは、実際にパレンタルロックに対応したディスクをお買い上げになったときに、お客様ご自身で動作させてご確認ください。

• 制限をかけないときは、“オフ” に設定してください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">■ ネットワーク
BD-LIVE™ 機能をお楽しみになるときに必要な設定です。
この設定は、本機をインターネットに接続し、ルーターの電源がはいった状態で行ってください。</td></tr>
<tr><td>IPアドレス設定
IPアドレスを設定します。</td><td>インターネットに接続するために、本機に割り当てられる固有の番号を設定します。

●IPアドレスを自動取得できる場合
“自動” を選び、[決定] を押してください。
IPアドレスが自動的に取得されます。
“接続テスト” を選び、[決定] を押して、接続が正しくされることを確認してください。

●IPアドレスを自動取得できない場合
“手動” を選び、[決定] を押してください。
“IPアドレス”、“サブネットマスク”、“デフォルトゲートウェイ”、“DNS” をそれぞれ入力します。
[◀/▶] で入力する項目を選び、数字ボタンで入力してください。
（数字ボタンで入力できない場合は、一度[▼]を押してから入力してください。）
入力が終わったら、最後に[決定] を押します。
“接続テスト” を選び、[決定] を押して、接続が正しくされることを確認してください。</td></tr>
<tr><td>接続テスト</td><td>ネットワークの接続テストを行います。</td></tr>
<tr><td>BD-LIVE接続</td><td>許可
BD-LIVE™ 機能対応のディスクを再生中に本機をインターネットに接続して、所定のコンテンツを自動的にすべてダウンロードします。

一部許可
BD-LIVE™ 機能対応のディスクを再生中に本機をインターネットに接続して、BD-LIVE™ コンテンツ制作者の証明書が含まれているときにだけ所定のコンテンツを自動でダウンロードします。

禁止
本機のインターネット接続を禁止し、コンテンツのダウンロードを行いません。</td></tr>
<tr><td>情報</td><td>ネットワークの情報が表示されます。</td></tr>
</table>

表示設定

設定項目	設定内容の詳細
■ テレビ テレビへの出力に関する設定です。	
画面形状 接続したテレビで本機からの映像をどのような画面形状で再生するかを選びます。	**16:9ワイド** 16:9ワイドテレビをお使いのとき。画面比4:3の映像は、16:9の画面いっぱいに横伸びして再生されます。
	16:9シュリンク 16:9ワイドテレビをお使いのとき。画面比4:3の映像は、16:9の画面形状に合わせるため左右に黒帯がつきますが、伸びは生じません。
	4:3ノーマル 従来の4:3テレビをお使いのとき。画面比16:9の映像は、4:3の画面形状に合わせるため左右をカットし、テレビ画面全体に表示して再生されます。
	4:3レターボックス 従来の4:3テレビをお使いのとき。画面比16:9の映像は、横長のまま表示し、上下に黒い帯をつけて再生されます。
解像度 (HDMI出力のみ) お使いのテレビの解像度に合わせて設定してください。	**自動** テレビに最も合った解像度が自動的に選ばれて出力されます。
	480i　480p　720p　1080i　1080p お使いのテレビの最大解像度を選んでください。解像度は、テレビの取扱説明書でご確認ください。
カラースペース (HDMI出力のみ) カラースペース(＝色空間)を設定します。 映像の色を表現するための方式で、おもに赤・緑・青の3色によって表現するRGB方式や、色差によって表現する方式などがあります。 お好みに合わせて設定します。	**RGB** 出力信号をRGB16 ～ 255の範囲で色変換を行います。
	YCbCr 色差YCbCrを4：4：4の比率で色変換を行います。
	YCbCr422 色差YCbCrを4：2：2の比率で色変換を行います。
	フルRGB 出力信号をRGB0 ～ 255の範囲で色変換を行います。
HDMIディープカラー (HDMI出力のみ) ディープカラー対応のテレビとHDMI接続している場合に必要な設定です。 たとえば海の色などはディープカラー出力では色をより細かい段階に分けてきれいに表現できます。 “カラースペース”を“YCbCr422”に設定している場合は、この“HDMIディープカラー”の設定はできません。	**30ビット** お使いのテレビで30bit階調の表現ができる場合に設定します。
	36ビット お使いのテレビで36bit階調の表現ができる場合に設定します。
	オフ 映像が乱れたときや色が不自然なときに設定します。

(つづく)

（前ページよりつづく）

設定項目		設定内容の詳細
	HDMI 1080/24p （HDMI出力のみ） 接続するテレビが1080プログレッシブ24フレームに対応している場合、毎秒24フレームで記録した映画などフィルム素材をブルーレイディスクで再生する際、余計な変換処理を挟まずに高画質でより自然に近い映像を楽しめます。	**オン** 解像度が1080/24pに設定されます。 • 本機の出力を1080/24p解像度でご覧になるには、以下の4つの条件がすべて揃っていることが必要です。 ①1080プログレッシブ24フレーム対応のテレビ　②本機の設定が“オン”③1080プログレッシブ24フレーム対応のディスク　④ハイスピード(High Speed）HDMIケーブルでテレビと接続（17 ページ） • この設定は、フィルム素材のブルーレイディスクソフトの再生時にのみ有効です。
		オフ 1080/24pの解像度で出力されません。
■ 映像設定		
	映像調整 お好みで映像の調整をします。 [決定] を押すと、以下の画面が表示されます。 [▲/▼] で項目を選び、[◀/▶] で調整します。 明るさ 0 コントラスト 0 色合い 0 彩度 0 [リターン] で終了します。	**明るさ** -16（暗くなる）⇔ 16（明るくなる）
		コントラスト -16（低くなる）⇔ 16（高くなる）
		色合い -9（緑っぽくなる）⇔ 9（紫っぽくなる）
		彩度 -9（色の鮮やかさが低くなる）⇔ 9（色の鮮やかさが高くなる）
	シャープネス	**高**（くっきりした映像になる） ⇔ **中** ⇔ **低**（やわらかい映像になる）
■ 動画設定		
	ビデオモード 映像信号の出力モードを設定します。	**標準** 処理を加えない標準の出力です。
		鮮明 鮮やかな色彩で出力されます。

音声設定

設定項目		設定内容の詳細
■ 音声出力		
	デジタル音声出力 デジタル音声同軸出力端子からの出力方式を選びます。 接続するアンプに合わせて設定します。お使いのアンプの対応音声方式をご確認のうえ、設定してください。	**ビットストリーム** ドルビーデジタル、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS、DTS-HDの各デコーダー内蔵AVアンプを本機に接続しているときに選びます。 これらの方式で記録されたディスクを再生すると、それぞれのビットストリーム音声が出力されます。
		PCM 2チャンネルAVアンプを本機に接続しているときに選びます。 ドルビーデジタル、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS、DTS-HDで記録されたディスクを再生すると、音声がPCM（2ch）に変換されて出力されます。
		再エンコード メイン、サブ、効果音の3つをミックスして、DTS5.1chに再エンコードし、ビットストリームで出力されます。（ブルーレイディスクのみ）
		オフ デジタル音声同軸出力端子からの出力を行いません。
	HDMI HDMI端子からの出力方式を選びます。	**ビットストリーム** ドルビーデジタル、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS、DTS-HDの各デコーダー内蔵AVアンプを本機に接続しているときに選びます。 これらの方式で記録されたディスクを再生すると、それぞれのビットストリーム音声が出力されます。
		PCM 2チャンネルAVアンプまたはマルチチャンネル対応AVアンプに接続しているときに選びます。 ・2チャンネルAVアンプに接続しているとき ドルビーデジタル、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS、DTS-HDで記録されたディスクを再生すると、音声がPCM（2ch）に変換されて出力されます。 ・マルチチャンネル対応AVアンプに接続しているとき マルチチャンネルPCM音声が出力されます。
		再エンコード メイン、サブ、効果音の3つをミックスして、DTS5.1chに再エンコードし、ビットストリームで出力されます。（ブルーレイディスクのみ）
		オフ HDMI端子からの出力を行いません。

（つづく）

(前ページよりつづく)

ご使用になる前に
準備する
再生する
設定
その他

	設定項目	設定内容の詳細
	ダウンサンプリング デジタル音声出力端子からの音声信号の出力を設定します。	**48k** お使いのアンプが48kHzまでしか対応していない場合に設定します。 96kHz PCMまたは192kHz PCMの音声を、48kHz 16bitで出力します。
		96k お使いのアンプが96kHzに対応している場合に設定します。 192kHz PCMまたは96kHz PCMの音声を、96kHz 24bitで出力します。 ただし、著作権保護のための信号が含まれているときは、48kHz 16bitで出力されます。
		192k お使いのアンプが192kHzに対応している場合に設定します。 192kHz PCMの音声を、192kHz 24bitで出力します。 ただし、著作権保護のための信号が含まれているときは、48kHz 16bitで出力されます。
	DRC(ダイナミックレンジコントロール) 夜間など、音量を下げて再生するときに、小さい音までよく聞こえるようにする機能を設定します。	**オフ** ダイナミックレンジコントロール機能が働きません。
		オン ダイナミックレンジコントロール機能が働きます。
		自動 機能の入/切を音声に応じて自動で行います。この設定はドルビーTrueHDにだけ有効です。効果のレベルはディスクによって異なります。

システム情報

本機の現在のソフトウェアのバージョンと、MACアドレスが確認できます。

（例）

[◀/▶] で他の設定画面に切り換わります。
終了するときは、[セットアップ] を押してセットアップ画面を消します。

故障かな？と思ったときは

この取扱説明書にそって操作しても正常に働かないときは、以下を参照しながら点検してください。点検されても直らないときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

症状	原因と対応のしかた
電源がはいらない	- 電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。 - 一度電源プラグをコンセントから抜き、5 ～ 10秒後に再びコンセントに差し込んでください。
電源が切れる	- “スクリーンセーバー” を “オン”（ 35 ページ）に設定した状態で、約20分間何も操作をしないと自動的に電源が切れます（待機状態）。本機を使用するときは、もう一度電源を入れてください。
映像が映らない、または音声がでない	- テレビの電源ははいっていますか。 - 接続をしている機器やスピーカーの接続を確認してください。 - 本機を接続したテレビやAVアンプなどはHDCPに対応していますか（HDMI接続時）。HDCPに対応していない機器を接続した場合は、正常に映像が出力されません。お手持ちのテレビやAVアンプなどについては取扱説明書をご覧ください。 - 映像または音声出力の選択は正しく行われていますか。
映像出力端子（黄）から映像が出力されない	- HDMI端子を同時に接続している場合、解像度設定を自動（720p以上）／720p ／ 1080i ／ 1080pに設定していると、映像出力端子（黄）からは映像信号が出力されません。 映像出力端子（黄）から映像信号を出力するには、解像度設定を “480i”、“480p” に設定（ 17 、 39 ページ）するか、HDMIケーブルをHDMI端子から抜いてください。
映像が映らない、または映像が乱れる ブルーレイディスク ビデオやDVDビデオの映像が白黒画像になる	- 早送り／早戻しをした直後などに、多少映像が乱れることがありますが、故障ではありません。 - 本機は直接テレビに接続するか、AVアンプを経由してテレビに接続します。VTR（ビデオテープレコーダー）経由で接続しないでください。ディスクによってはコピー禁止信号がはいっているものがあり、そのようなディスクをVTRを通して再生するとコピーガードシステムによって、画面が乱れることがあります。 - 本機で対応しているディスクかお確かめください。（ 3 ページ） - 本機が対応していないディスクや、異なるリージョンコードのディスクがはいっていませんか。（ 3 ページ）
HDMI接続をしていて映像が出ない、急に映像が出なくなった	- HDMIケーブルをしっかりと接続してください。 - 本機または接続機器の信号が正しく認識されていない可能性があります。本機とテレビの電源を入れ直してみてください。 - 接続したHDMI機器はHDCPに対応していますか。 - コンテンツによっては高解像度での出力を禁止している場合があります。リモコンの[HDMI] を繰り返し押して、解像度を切り換えてください。
[HDMI] ボタンで解像度の切換えができない	- 本機で再生中は解像度の切換えができません。[停止] を２回押して再生を停止してから、[HDMI] で解像度を切り換えてください。
“HDMI 1080/24p” に設定すると、画像の動きが荒くなる	- テレビとディスクの両方が1080プログレッシブ24フレームに対応していますか。
音声がでない、または途切れる	- 音量を調節してください。 - スピーカーは正しく接続されていますか。 - HDMIケーブルの接続を確認してください。 - “音声出力”（ 41 ページ）の設定をお確かめください。
再生中に一瞬画像が止まる	- ディスクにキズがあったり、指紋などでよごれている場合は、正常に再生できない場合があります。ディスクを清掃したり、キズのないディスクと取り替えて再生してください。 - ディスクに記録されたデータに問題がある可能性があります。

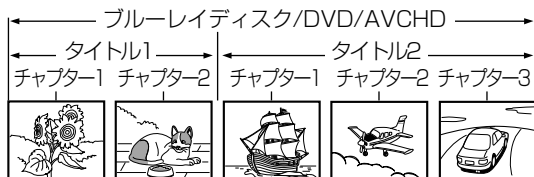
ディスクが再生できない	- ディスクを清掃してください。 - ディスクの印刷されている面を上にして正しく入れ直してください。 - ほかのディスクで再生できるかお確かめください。ほかのディスクで再生ができる場合、ディスクに不具合がある可能性があります。 - "視聴制限"（38ページ）の設定を変更してください。 - 再生できないディスクがはいっていませんか。 - ディスクはファイナライズされていますか。
ディスクを取り出しても通常の画面に戻らない	- 内部エラーが発生している可能性があります。一度電源を切り、しばらくしてから再び電源を入れてください。
リモコンで操作できない	- リモコン受光部に向けて操作していますか。 - リモコン受光部から離れたところから操作していませんか。 - 新しい乾電池に交換してください。 - ＋－を確かめて正しく乾電池を入れてください。
ボタン操作ができない、または本機が反応しない	- 一度電源プラグをコンセントから抜き、５～１０秒後に再びコンセントに差し込んでください。
再生中に操作ができない	- ディスクによってはその操作を禁止している場合があります。ディスクの説明書をお読みください。
再生可能ディスクが読み込まれない	- 本機内部で結露が発生している可能性があります。電源を「入」にしたまましばらく放置し、本体内部を乾かしてください。 - "再生できるメディア"（3ページ）に記載しているディスクかお確かめください。 - ディスクを清掃してください。
アングルを変更できない	- 複数のアングルが記録されていないブルーレイディスク ビデオまたはDVDビデオは、アングルを切り換えられません。また、特定の場面のみ複数のアングルが記録されているものがあります。
MP3、JPEGファイルが再生できない	- 再生できるディスクの種類や再生対応条件を確認してください。（32ページ）
タイトルを選択しても再生が始まらない	- 視聴制限によって再生を禁止している可能性があります。"視聴制限"（38ページ）の設定を確認してください。
視聴制限で設定したパスワードを忘れた	- パスワード入力画面で[0]、[0]、[0]、[0]を入力すると、登録されていたパスワードが消去されます。新たなパスワードを設定し直してください。
セットアップ画面で一部の項目が選べない	- [■]を１回押して再生を停止した状態（続き再生待機状態）では、言語や音声、字幕などの設定が変更できません。これらを変更するには、[■]を２回押して完全な再生停止状態にしてからセットアップ画面を表示させてください。
ネットワーク接続ができない	- LANケーブルの接続は正しくできていますか。 - モデムまたはルーターの電源ははいっていますか。 - ネットワーク設定は正しくできていますか。 - モデムまたはルーターの接続は正しくできていますか。 - "BD-LIVE接続"（38ページ）の設定を確認してください。
パソコンでインターネットに接続中に本機がネットワークにつながらない	- お使いのインターネットサービスのご契約内容を確認し、複数の端末からの同時接続がプロバイダーで防がれていないか確認してください。
BD-LIVE™機能が使えないまたはデータのダウンロードが正しく行われない	- 充分な空き容量（1GB以上）があるUSBフラッシュメモリの使用を推奨しています。 - USBフラッシュメモリが正しく差し込まれているか確認してください。
BD-LIVE™機能付きのブルーレイディスク ビデオが再生できない	- 1GB以上の空き容量（推奨）があるUSBフラッシュメモリを入れて再生してください。BD-LIVE™対応ディスクには、再生時にメモリーを必要とするものがあります。
USBフラッシュメモリを使ったソフトウェアのアップデートができない	- USBフラッシュメモリをお使いの場合は、アップデートプログラムの保存の際に、保存するフォルダの名前を「UPG_ALL」としてください。

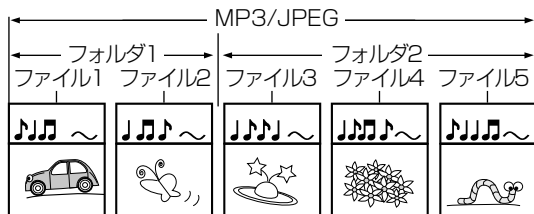
お知らせ

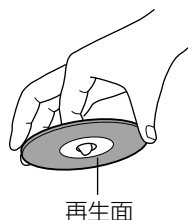
- 機能によっては一部の操作状態で利用できないことがありますが、これは故障ではありません。
- ディスクの種類や記録状態によっては使えない機能もあります。

ディスクに関するご注意

メディアの記録内容の構成について

ブルーレイディスク ビデオ、DVDビデオ、AVCHDは、いくつかの大きな区切り（タイトル）と小さな区切り（チャプター）に分けられています。それぞれの区切りに番号が割り当てられ、これらの番号をタイトル番号、チャプター番号と呼びます。

音楽用CDは、楽曲ごとなどのいくつかの区切り（トラック）に分けられています。それぞれの区切りに番号が割り当てられ、これらの番号をトラック番号と呼びます。

メディアに記録されたMP3、JPEGファイルは、いくつかの大きな区切り（フォルダ）と小さな区切りに（ファイル）に分けられています。ファイルはフォルダに、フォルダはいくつかの階層に分けて記録させることができます。

■ ディスクの取り扱いかた

- 再生面には手を触れないでください。
  たとえば、図のように持ってください。

- ディスクに紙やシールを貼らないでください。
- ディスクを折り曲げたり、表面を傷つけないでください。

■ ディスクのお手入れのしかた

- ディスクについた指紋やほこりなどのよごれは、画像の乱れや音質低下の原因となります。柔らかい布で、ディスクの中心から外側に向かって軽く拭き取り、いつもきれいにしておいてください。
- シンナーやベンジン、アナログ式レコード専用のクリーナー、静電気防止剤などは絶対使用しないでください。ディスクを傷める原因となります。

■ ディスクの保管のしかた

- 直射日光の当たる場所や、湿度の高い場所には保管しないでください。
- 浴室や加湿器のそばなど、湿気やほこりの多い場所には保管しないでください。
- ディスクは必ず専用ケースに入れて保管してください。専用ケースに入れずに重ねたり、立てかけたりすると変形する原因となります。

著作権について

ディスクを無断で複製、放送、上映、有線放送、公開演奏、レンタル（有償、無償を問わず）することは、法律で禁止されています。

これに従い本機では、著作権保護技術を適用しています。

ビデオデッキなどを接続してディスクの内容を複製しても、コピー防止機能の働きによって、複製した画像は乱れます。

本機は、Rovi Corporationならびに他の権利者が保有する米国特許およびその他の知的財産権で保護された著作権保護技術を採用しています。この著作権保護技術の使用はRovi Corporationの認可が必要であり、Rovi Corporationの認可なしでは、一般家庭用または他のかぎられた視聴用だけに使用されるようになっています。改造または分解は禁止されています。

本機で使用している登録商標とライセンスについて

BONUS VIEW™

AVCREC™

Blu-ray Disc™(ブルーレイディスク)、Blu-ray™(ブルーレイ)、BD-Live™、BONUSVIEW™、AVCREC™及び関連ロゴはブルーレイディスク アソシエーションの商標です。

DVD VIDEO

DVDロゴはDVDフォーマットロゴライセンシング(株)の商標です。

AVCHD™

"AVCHD"および"AVCHD"ロゴはパナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。

x.v.Color

"x.v.Color"および"x.v.Color"ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

HDMI

HDMI、HDMIロゴおよびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、米国およびその他の国々におけるHDMI Licensing, LLCの商標または登録商標です。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

DTSは、DTS, Inc.の登録商標です。DTS-HD Master Audio | Essentialは、DTS, Inc.の商標です。

Manufactured under license under U.S. Patent #'s: 5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535; 7,392,195; 7,272,567; 7,333,929; 7,212,872 & other U.S. and worldwide patents issued & pending. DTS and the Symbol are registered trademarks, & DTS-HD, DTS-HD Master Audio | Essential and the DTS logos are trademarks of DTS, Inc. Product includes software. © DTS, Inc. All Rights Reserved.

OracleとJavaは、Oracle Corporation及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

本製品は、AVC規格特許ライセンスのもとで、個人的利用および非商業利用目的に限り、お客様が以下のいずれか、または両方の使用を行なうことが許諾されています。
(ｉ)AVC標準規格に従いビデオをエンコードすること(以下「AVCビデオ」という)、
(ii)個人的、非商業的行為においてお客様によりエンコードされた、または/および、AVCビデオを提供するためにライセンスを受けたビデオ提供者から取得した、AVCビデオをデコードすること。他の使用についてはライセンスを許諾されていません。上記以外の情報については、MPEG LAのHP(HTTP//WWW.MPEGLA.COM)より入手頂けます。

本製品は、VC-1規格特許ライセンスのもとで、個人的利用および非商業利用目的に限り、お客様が以下のいずれか、または両方の使用を行なうことが許諾されています。
(ｉ)VC-1標準規格に従いビデオをエンコードすること(以下「VC-1ビデオ」という)、
(ii)個人的、非商業的行為においてお客様によりエンコードされた、または/および、VC-1ビデオを提供するためにライセンスを受けたビデオ提供者から取得した、VC-1ビデオをデコードすること。他の使用についてはライセンスを許諾されていません。上記以外の情報については、MPEG LAのHP(HTTP//WWW.MPEGLA.COM)より入手頂けます。

MPEG Layer-3オーディオ・コーディング技術は、フランフォーハー IISおよびトムソンのライセンスによるものです。

※ その他に記載されている会社名、ブランド名、ロゴ、製品名、機能名などは、それぞれの会社の登録商標です。

用語解説

アルファベット順 / 数字順

AAC（エーエーシー）
Advanced Audio Codingの略で、音声符号化の規格の一つです。AACは、CD並みの音質でデータを約1/12にまで圧縮できます。また、5.1chのサラウンド音声や多言語放送を行うこともできます。

AVCHD（エーブイシーエイチディー）
高度な圧縮技術によって、1080iまたは720pのHD（ハイビジョン）映像を記録するハイビジョンデジタルビデオカメラの規格です。映像の圧縮にはMPEG4-AVC/H.264方式、音声の圧縮にはドルビーデジタルまたはリニアPCMが用いられます。

AVCREC™（エーブイシーレック）
AVCREC™は、ハイビジョン映像をDVDに記録するための規格の名称です。

BDAV（ビーディーエーブイ）
Blu-ray Disc Audio/Visualの略で、BD-R、BD-REなどの書込み式ブルーレイディスクで利用されているアプリケーションフォーマットの一種です。

BDMV（ビーディーエムブイ）
Blu-ray Disc Movieの略で、ブルーレイディスク規格の一つである「BD-ROM」で利用されているアプリケーションフォーマットの一種です。DVDとの親和性がある「HDMV」（high definition movie mode）と、高度なインタラクティブ機能をプログラム可能な「BD-J」（Blu-ray Disc Java）の2つの機能があります。

BD-J（Java）（ビーディージェイ）
ブルーレイディスク ビデオでは、Javaアプリケーションを利用した、よりインタラクティブな機能（ゲームなど）を楽しめるソフトがあります。

BD-LIVE™（ビーディーライブ）
BD-LIVE™は、ブルーレイディスク ビデオの新しい再生機能で、インターネットに接続し、追加映像や追加字幕のダウンロード、BD-Jによる通信対応ゲームなどのインタラクティブな機能を利用できます。

DNSサーバー（ディーエヌエスサーバー）
DNSサーバーは、インターネット上でドメインネームからIPアドレスを調べる機能を持ったサーバーです。

DTS（ディーティーエス）
Digital Theater Systemの略で、DTS社が開発した、デジタル音声システムです。DTS対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS-HD（ディーティーエスエイチディー）
ブルーレイ·ディスクのオプション音声として採用された、従来のDTSをさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数や、ロスレス・オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイ・ディスクでは、最大7.1チャンネルまで対応しています。

DTS-HD Master Audio（ディーティーエスエイチディーマスターオーディオ）
従来のDTSからさらにロスレス音声符号化技術によってマスター音声の忠実な再現を可能としています。最大192kHzのサンプリング周波数、7.1チャンネルのマルチチャンネルサラウンドに対応しています。

HDCP（エイチディーシーピー）
機器間でデジタル信号を送受信する際に、信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の一つです。

HDMI（エイチディーエムアイ）
High-Definition Multimedia Interfaceの略で、ブルーレイディスク/DVDレコーダーやブルーレイディスク/DVDプレーヤーなどと接続できるAV用のデジタルインターフェースです。映像信号と音声信号を1本のケーブルで接続できます。

IPアドレス（アイピーアドレス）
IPアドレスは、ネットワークに接続された機器を識別する番号のことです。

JPEG（ジェイペグ）
Joint Photographic Experts Groupの略で、静止画像データの圧縮方法の一つです。データサイズを小さくできるので、広く使われています。

LAN（ラン、ローカルエリアネットワーク）
Local Area Networkの略で、一定範囲内（会社や学校、家庭内など）のネットワークのことです。

LPCM（リニアピーシーエム）
PCMはPulse Code Modulationの略で、LPCMはデジタル音声をそのまま圧縮せずに記録する方式です。

MACアドレス（マックアドレス）
LAN上につながっている機器を識別するために各機器ごとに割り当てられている番号です。

MPEG（エムペグ）
Moving Picture Experts Groupの略で、動画音声圧縮方式の国際基準です。ブルーレイディスクやDVDの映像は、この方式で記録されています。

五十音順

アスペクト比
テレビ画面の縦横比率です。従来の標準テレビ画面の比率は4：3で、ワイドスクリーンテレビの画面の比率は16：9です。

インタラクティブオーディオ
ブルーレイディスク ビデオのタイトルなどに収録されている、操作しているときのクリック音などの音声です。

インターレース(飛び越し走査)
映像の1フレーム(コマ)を二つのフィールド映像で半分ずつ表示する方式で、従来のテレビの表示方法です。奇数フィールドでは奇数番号の走査線、偶数フィールドでは偶数番号の走査線を交互に表示します。

ゲートウェイアドレス
インターネットへアクセスする際に使用する機器(ルーターなど)のIPアドレスのことをいいます。

コピーガード
複製防止機能のことです。著作権保護のため、著作権者などによって複製を制限する信号が記録されているソフトや番組を録画することはできません。

サブネットマスク
ルーターにつなぐ機器のIPアドレスを絞りこむための数字です。

タイトル
ブルーレイディスク ビデオやDVDビデオに複数の映画が入っているときなど、各映画の題名(タイトル)などをいいます。

ダウンミックス
サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

チャプター
タイトルの中にある章をチャプターといいます。

ディープカラー（Deep Color）
8bit以上の色情報を扱える高色域規格の一つです。ディープカラー対応のテレビに接続することで、映像を高階調表示に変換して再現します。

トラック
音楽用CDの各曲ごとの区切りのことを「トラック」といいます。

ドルビー TrueHD
ブルーレイ・ディスクのオプション音声として採用されたロスレス符号化技術で、7.1チャンネルに対応しています。高品質なオリジナルの音声データをビット単位の精度で再現します。

ドルビーデジタル
ドルビーラボラトリーズが開発した立体音響効果のことです。最大5.1チャンネルの独立したマルチチャンネルオーディオシステムです。このシステムは、映画館にサラウンドシステムとして採用されているドルビーデジタルと同一のシステムです。

ドルビーデジタルプラス
ドルビーデジタルの拡張版で、ブルーレイ・ディスクのオプション音声として採用された高音質デジタル音声技術です。7.1チャンネルのマルチチャンネルサラウンドに対応しています。

ビットストリーム
圧縮されてデジタル信号に置き換えられた信号のことで、対応しているアンプなどによってそれぞれに合った信号に変換されます。

ファイナライズ
DVDレコーダーやパソコンで録画したディスクを、ほかのDVDプレーヤーなどで再生できるようにする機能です。

ブルーレイディスク
大容量データの保存やハイビジョン映像の記録・再生を目的として開発されたディスクフォーマットです。ブルーレイディスクは片面1層のディスクで25GBまで、2層のディスクで50GBまでの記録に対応したディスクです。

プレイリスト
オリジナルの映像とは別に編集用に作成された映像のことで、オリジナルの映像のお好みのシーンを順番に再生することができます。

プログレッシブ(順次走査)
映像の1フレーム(コマ)を二つのフィールド映像で半分ずつ表示するインターレース方式に対して、1フレームを一つの映像で表示する方法です。従来のインターレース方式が1秒を30フレーム(60フィールド)で構成するのに対して、はじめから1秒を60フレームで構成することで、高品質な映像を再現できます。

リージョンコード
ブルーレイディスク ビデオやDVDビデオを再生できる国や地域を示すコードです。本機では、ブルーレイディスクビデオのリージョンコードは「A」、DVDビデオのリージョンコードは「2」です。

おもな仕様

■ 本体部

動作時消費電力
18W

待機時消費電力
1W

電源
AC100V 50/60Hz

質量
1.53kg

外形寸法
幅430×高さ42.5×奥行207mm（突起部含む）
幅430×高さ42.5×奥行200mm（突起部含まず）

信号方式
NTSCカラーテレビジョン方式

使用条件
温度：5℃～35℃
動作姿勢：水平

■ 本体端子部

HDMI出力
HDMIコネクタ×1　TypeA端子（19ピン）

映像出力
1.0V（p-p）75Ω、同期負　ピンジャック×1系統

音声出力（アナログ音声出力）
2.0V（rms）、出力インピーダンス2.2kΩ以下、ピンジャック（L、R）×1系統

音声出力（デジタル音声出力）
同軸ピンジャック×1系統（0.5V（p-p）75Ω）

LAN端子
10BASE-T/100BASE-TX ×1系統
（ネットワークの使用環境によって、通信速度に差が生じることがあります。本機は通信速度や通信品質を保証するものではありません。）

USB端子
USB1.1/2.0準拠×1系統

- 意匠、仕様などは改良のため予告なく変更することがあります。
- この取扱説明書に描かれているイラスト、画面表示などは見やすくするために誇張、省略があり実際とは異なります。
- 本製品は、ご愛用終了時に再資源化の一助としておもなプラスチック部品に材料名表示をしています。

本機で使われるソフトウェアのライセンス情報

本内容はライセンス情報のため、操作には関係ありません。

本機に組み込まれたソフトウェアは、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成され、個々のソフトウェアコンポーネントは、それぞれに第三者の著作権が存在します。

本機は、第三者が規定したエンドユーザーライセンスアグリーメントあるいは著作権通知（以下、「EULA」といいます）に基づきフリーソフトウェアとして配布されるソフトウェアコンポーネントを使用しております。

「EULA」の中には、実行形式のソフトウェアコンポーネントを配布する条件として、当該コンポーネントのソースコードの入手を可能にするよう求めているものがあります。当該「EULA」の対象となるソフトウェアコンポーネントのお問い合わせに関しては、以下のホームページをご覧いただくようお願いいたします。

ホームページアドレス
http://www.toshiba.co.jp/regza/bd_dvd/

また、本機のソフトウェアコンポーネントには、本機用に開発または作成したソフトウェアも含まれており、これらソフトウェアおよびそれに付帯したドキュメント類には、著作権法、国際条約条項および他の準拠法によって保護されています。

なお、「EULA」の適用を受けない本機用に作成したソフトウェアコンポーネンツは、ソースコード提供の対象とはなりませんのでご了承ください。

ご購入いただいた本機は、製品として、弊社所定の保証をいたします。

ただし、「EULA」に基づいて配布されるソフトウェアコンポーネントには、著作権者または弊社を含む第三者の保証がないことを前提に、お客様がご自身でご利用になられることが認められるものがあります。この場合、当該ソフトウェアコンポーネントは無償でお客様に使用許諾されますので、適用法令の範囲内で、当該ソフトウェアコンポーネントの保証は一切ありません。著作権やその他の第三者の権利等については、一切の保証がなく、"as is"（現状）の状態で、かつ、明示か黙示であるかを問わず一切の保証をつけないで、当該ソフトウェアコンポーネントが提供されます。ここでいう保証とは、市場性や特定目的適合性についての黙示の保証も含まれますが、それに限定されるものではありません。当該ソフトウェアコンポーネントの品質や性能に関するすべてのリスクはお客様が負うものとします。また、当該ソフトウェアコンポーネントに欠陥があるとわかった場合、それに伴う一切の派生費用や修理・訂正に要する費用は、東芝は一切の責任を負いません。適用法令の定め、または書面による合意がある場合を除き、著作権者や上記許諾を受けて当該ソフトウェアコンポーネントの変更・再配布を為し得る者は、当該ソフトウェアコンポーネントを使用したこと、または使用できないことに起因する一切の損害についてなんらの責任も負いません。著作権者や第三者が、そのような損害の発生する可能性について知らされていた場合でも同様です。なお、ここでいう損害には、通常損害、特別損害、偶発損害、間接損害が含まれます（データの消失、またはその正確さの喪失、お客様や第三者が被った損失、他のソフトウェアとのインタフェースの不適合化等も含まれますが、これに限定されるものではありません）。当該ソフトウェアコンポーネンツの使用条件や遵守いただかなければならない事項等の詳細は、各「EULA」をお読みください。

本機に組み込まれた「EULA」の対象となるソフトウェアコンポーネントは、以下のとおりです。これらソフトウェアコンポーネントをお客様自身でご利用いただく場合は、対応する「EULA」をよく読んでから、ご利用くださるようお願いいたします。なお、各「EULA」は東芝以外の第三者による規定であるため、原文を記載します。

本機で使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関するエンドユーザーライセンスアグリーメント　**原文**

対応ソフトウェアモジュール	
Linux kernel	GPLv2
SquashFS	GPLv2
Busybox	GPLv2
U-boot	GPLv2
gcc libgcc	GPLv3.txt and gcc-exception.txt (GPLv3 with GCC Runtime Library Exception)
gcc libstdc++	GPLv3.txt and gcc-exception.txt (GPLv3 with GCC Runtime Library Exception)
glibc	LGPLv2.1
LIRC	GPLv2
International Components for Unicode	ICULicense.txt
OpenSSL	openssl.txt
zlib	zlib.txt
FreeType	FreeType.txt
Expat	expat.txt
cURL	libcurl.txt
Independent JPEG group	libjpeg.txt
c-ares	c-arse.txt
mtd-utils	GPLv2
libmtp	LGPLv2.1
libusb	LGPLv2.1
libusb-compat	LGPLv2.1
Unicode Bidirectional Algorithm	Unicode_Bidirectional_Algorithm.txt
HarfBuzz	HarfBuzz.txt

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE
Version 2, June 1991
Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.,
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The “Program”, below, refers to any such program or work, and a “work based on the Program” means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term “modification”.) Each licensee is addressed as “you”.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole.
If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further

restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc.,51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'.
This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program 'Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License.

LGPLv2.1

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE
Version 2.1, February 1999
Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.
[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.
This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.
For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others. Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.
Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.
When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library. We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances. For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License. In other cases, permission to use a particular library in non free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system. Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library. The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING,
DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you". A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.
The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) "Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.
Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.
1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.
You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.
2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:
a) The modified work must itself be a software library.
b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.
(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)
These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it. Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library. In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the

Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.
3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices. Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy. This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.
4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange. If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.
5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a “work that uses the Library”. Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License. However, linking a “work that uses the Library” with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a “work that uses the library”. The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables. When a “work that uses the Library” uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law. If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.) Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.
6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a “work that uses the Library” with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer’s own use and reverse engineering for debugging such modifications. You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things: a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable “work that uses the Library”, as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.) b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user’s computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with. c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution. d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place. e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy. For an executable, the required form of the “work that uses the Library” must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable. It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.
7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:
a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.
8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.
9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.
10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients’ exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.
11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.
If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances. It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice. This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.
12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.
13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns. Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and “any later version”,

you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.
14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries
If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License). To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the “copyright” line and a pointer to where the full notice is found.
<one line to give the library’s name and a brief idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.
This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details. You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA Also add information on how to contact you by electronic and paper mail. You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a “copyright disclaimer” for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names: Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob’ (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.
<signature of Ty Coon>, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice
That’s all there is to it!

ICU License - ICU 1.8.1 and later
COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright (c) 1995-2009 International Business Machines Corporation and others

All rights reserved.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the “Software”), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, provided that the above copyright notice(s) and this permission notice appear in all copies of the Software and that both the above copyright notice(s) and this permission notice appear in supporting documentation.

THE SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS”, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization of the copyright holder.

All trademarks and registered trademarks mentioned herein are the property of their respective owners.

LICENSE ISSUES
LICENSE ISSUES
==============

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit.
See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses.
In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

/ ==========================
===========================
=============
Copyright (c) 1998-2008 The OpenSSL Project.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
“This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)”

4. The names “OpenSSL Toolkit” and “OpenSSL Project” must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.

5. Products derived from this software may not be called “OpenSSL” nor may “OpenSSL” appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.

6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
“This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)”

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES,

INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.
==

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

/

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and noncommercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code.
The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.
If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.
This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
"This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
The word 'cryptographic' can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
"This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.
The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution license [including the GNU Public License.]
/

zlib

/ zlib.h -- interface of the 'zlib' general purpose compression library version 1.2.3, July 18th, 2005

Copyright (C) 1995-2005 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly jloup@gzip.org
Mark Adler madler@alumni.caltech.edu
/

The FreeType Project LICENSE
2006-Jan-27

Copyright 1996-2002, 2006 by David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg

Introduction
============

The FreeType Project is distributed in several archive packages; some of them may contain, in addition to the FreeType font engine, various tools and contributions which rely on, or relate to, the FreeType Project.

This license applies to all files found in such packages, and which do not fall under their own explicit license. The license affects thus the FreeType font engine, the test programs, documentation and make files, at the very least.

This license was inspired by the BSD, Artistic, and IJG (Independent JPEG Group) licenses, which all encourage inclusion and use of free software in commercial and freeware products alike. As a consequence, its main points are that:

We don't promise that this software works. However, we will be interested in any kind of bug reports. (`as is' distribution)

You can use this software for whatever you want, in parts or full form, without having to pay us. (`royalty-free' usage)

You may not pretend that you wrote this software. If you use it, or only parts of it, in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you have used the FreeType code. (`credits')

We specifically permit and encourage the inclusion of this software, with or without modifications, in commercial products. We disclaim all warranties covering The FreeType Project and assume no liability related to The FreeType Project.

Finally, many people asked us for a preferred form for a credit/disclaimer to use in compliance with this license. We thus encourage you to use the following text:
"""
Portions of this software are copyright © <year> The FreeType Project (www.freetype.org). All rights reserved.
"""

Please replace <year> with the value from the FreeType version you actually use.

Legal Terms
===========

0. Definitions

Throughout this license, the terms `package', `FreeType Project', and `FreeType archive' refer to the set of files originally distributed by the authors (David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg) as the `FreeType Project', be they named as alpha, beta or final release.

`You' refers to the licensee, or person using the project, where `using' is a generic term including compiling the project's source code as well as linking it to form a `program' or `executable'. This program is referred to as `a program using the FreeType engine'.

This license applies to all files distributed in the original FreeType Project, including all source code, binaries and documentation, unless otherwise stated in the file in its original, unmodified form as distributed in the original archive.
If you are unsure whether or not a particular file is covered by this license, you must contact us to verify this.

The FreeType Project is copyright (C) 1996-2000 by David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg. All rights reserved except as specified below.

1. No Warranty

THE FREETYPE PROJECT IS PROVIDED `AS IS' WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. IN NO EVENT WILL ANY OF THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY DAMAGES CAUSED BY THE USE OR THE INABILITY TO USE, OF THE FREETYPE PROJECT.

2. Redistribution

This license grants a worldwide, royalty-free, perpetual and irrevocable right and license to use, execute, perform, compile, display, copy, create derivative works of, distribute and sublicense the FreeType Project (in both source and object code forms) and derivative works thereof for any purpose; and to authorize others to exercise some or all of the rights granted herein, subject to the following conditions:

Redistribution of source code must retain this license file (`FTL.TXT') unaltered; any additions, deletions or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation. The copyright notices of the unaltered, original files must be preserved in all copies of source files.

Redistribution in binary form must provide a disclaimer that states that the software is based in part of the work of the FreeType Team, in the distribution documentation. We also encourage you to put an URL to the FreeType web page in your documentation, though this isn't mandatory.

These conditions apply to any software derived from or based on the FreeType Project, not just the unmodified files. If you use our work, you must acknowledge us. However, no fee need be paid to us.

3. Advertising

Neither the FreeType authors and contributors nor you shall use the name of the other for commercial, advertising, or promotional purposes without specific prior written permission.

We suggest, but do not require, that you use one or more of the following phrases to refer to this software in your documentation or advertising materials: `FreeType Project', `FreeType Engine', `FreeType library', or `FreeType Distribution'.

As you have not signed this license, you are not required to accept it. However, as the FreeType Project is copyrighted material, only this license, or another one contracted with the authors, grants you the right to use, distribute, and modify it.
Therefore, by using, distributing, or modifying the FreeType Project, you indicate that you understand and accept all the terms of this license.

4. Contacts

There are two mailing lists related to FreeType:

freetype@nongnu.org

Discusses general use and applications of FreeType, as well as future and wanted additions to the library and distribution.
If you are looking for support, start in this list if you haven't found anything to help you in the documentation.

freetype-devel@nongnu.org

Discusses bugs, as well as engine internals, design issues, specific licenses, porting, etc.

Our home page can be found at
http://www.freetype.org

Expat

Copyright (c) 1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd and Clark Cooper
Copyright (c) 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006 Expat maintainers.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the Software), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS”, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT.
IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Curl

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright (c) 1996 - 2008, Daniel Stenberg, <daniel@haxx.se>.

All rights reserved.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.

THE SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS”, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization of the copyright holder.

IJG

1. We don't promise that this software works. (But if you find any bugs, please let us know!)
2. You can use this software for whatever you want. You don't have to pay us.
3. You may not pretend that you wrote this software. If you use it in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you've used the IJG code.

In legalese:

The authors make NO WARRANTY or representation, either express or implied, with respect to this software, its quality, accuracy, merchantability, or fitness for a particular purpose. This software is

provided "AS IS", and you, its user, assume the entire risk as to its quality and accuracy.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this software (or portions thereof) for any purpose, without fee, subject to these conditions:
(1) If any part of the source code for this software is distributed, then this README file must be included, with this copyright and no-warranty notice unaltered; and any additions, deletions, or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation.
(2) If only executable code is distributed, then the accompanying documentation must state that "this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group".
(3) Permission for use of this software is granted only if the user accepts full responsibility for any undesirable consequences; the authors accept NO LIABILITY for damages of any kind.

These conditions apply to any software derived from or based on the IJG code, not just to the unmodified library. If you use our work, you ought to acknowledge us.

Permission is NOT granted for the use of any IJG author's name or company name in advertising or publicity relating to this software or products derived from it. This software may be referred to only as "the Independent JPEG Group's software".

We specifically permit and encourage the use of this software as the basis of commercial products, provided that all warranty or liability claims are assumed by the product vendor.

ansi2knr.c is included in this distribution by permission of L. Peter Deutsch, sole proprietor of its copyright holder, Aladdin Enterprises of Menlo Park, CA. ansi2knr.c is NOT covered by the above copyright and conditions, but instead by the usual distribution terms of the Free Software Foundation; principally, that you must include source code if you redistribute it. (See the file ansi2knr.c for full details.) However, since ansi2knr.c is not needed as part of any program generated from the IJG code, this does not limit you more than the foregoing paragraphs do.

The Unix configuration script "configure" was produced with GNU Autoconf. It is copyright by the Free Software Foundation but is freely distributable.
The same holds for its supporting scripts (config.guess, config.sub, ltconfig, ltmain.sh). Another support script, install-sh, is copyright by M.I.T. but is also freely distributable.

It appears that the arithmetic coding option of the JPEG spec is covered by patents owned by IBM, AT&T, and Mitsubishi. Hence arithmetic coding cannot legally be used without obtaining one or more licenses. For this reason, support for arithmetic coding has been removed from the free JPEG software.
(Since arithmetic coding provides only a marginal gain over the unpatented Huffman mode, it is unlikely that very many implementations will support it.)
So far as we are aware, there are no patent restrictions on the remaining code.

The IJG distribution formerly included code to read and write GIF files.
To avoid entanglement with the Unisys LZW patent, GIF reading support has been removed altogether, and the GIF writer has been simplified to produce uncompressed GIFs. This technique does not use the LZW algorithm; the resulting GIF files are larger than usual, but are readable by all standard GIF decoders.

We are required to state that "The Graphics Interchange Format(c) is the Copyright property of CompuServe Incorporated. GIF(sm) is a Service Mark property of CompuServe Incorporated."

CharisSIL OFL

SIL OPEN FONT LICENSE Version 1.1 - 26 February 2007

PREAMBLE
The goals of the Open Font License (OFL) are to stimulate worldwide development of collaborative font projects, to support the font creation efforts of academic and linguistic communities, and to provide a free and open framework in which fonts may be shared and improved in partnership with others.

The OFL allows the licensed fonts to be used, studied, modified and redistributed freely as long as they are not sold by themselves. The fonts, including any derivative works, can be bundled, embedded, redistributed and/or sold with any software provided that any reserved names are not used by derivative works. The fonts and derivatives, however, cannot be released under any other type of license. The requirement for fonts to remain under this license does not apply to any document created using the fonts or their derivatives.

DEFINITIONS
Font Software refers to the set of files released by the Copyright Holder(s) under this license and clearly marked as such. This may include source files, build scripts and documentation.

Reserved Font Name refers to any names specified as such after the copyright statement(s).

Original Version refers to the collection of Font Software components as distributed by the Copyright Holder(s).

Modified Version refers to any derivative made by adding to, deleting, or substituting -- in part or in whole -- any of the components of the Original Version, by changing formats or by porting the Font Software to a new environment.

Author refers to any designer, engineer, programmer, technical writer or other person who contributed to the Font Software.

PERMISSION & CONDITIONS
Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Font Software, to use, study, copy, merge, embed, modify, redistribute, and sell modified and unmodified copies of the Font Software, subject to the following conditions:

1) Neither the Font Software nor any of its individual components, in Original or Modified Versions, may be sold by itself.

2) Original or Modified Versions of the Font Software may be bundled, redistributed and/or sold with any software, provided that each copy contains the above copyright notice and this license. These can be included either as stand-alone text files, human-readable headers or in the appropriate machine-readable metadata fields within text or binary files as long as those fields can be easily viewed by the user.

3) No Modified Version of the Font Software may use the Reserved Font Name(s) unless explicit written permission is granted by the corresponding Copyright Holder. This restriction only applies to the primary font name as presented to the users.

4) The name(s) of the Copyright Holder(s) or the Author(s) of the Font Software shall not be used to promote, endorse or advertise any Modified Version, except to acknowledge the contribution(s) of the Copyright Holder(s) and the Author(s) or with their explicit written permission.

5) The Font Software, modified or unmodified, in part or in whole, must be distributed entirely under this license, and must not be distributed under any other license. The requirement for fonts to remain under this license does not apply to any document created using the Font Software.

TERMINATION
This license becomes null and void if any of the above conditions are not met.

DISCLAIMER
THE FONT SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF COPYRIGHT, PATENT, TRADEMARK, OR OTHER RIGHT. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INDIRECT, INCIDENTAL, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE FONT SOFTWARE OR FROM OTHER DEALINGS IN THE FONT SOFTWARE.

保証とアフターサービス

必ずお読みください。

保証書（別添）

- 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき内容をよくお読みのあと、たいせつに保管してください。

保　証　期　間

お買い上げ日から１年間です。ただし、業務用にご使用の場合、あるいは特殊使用の場合は、保証期間内でも「有料修理」とさせていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

補修用性能部品について

- 当社は、ブルーレイディスクプレーヤー（SD-BD3）の補修用性能部品を製造打ち切り後、最低８年保有しています。
- 補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理のために取りはずした部品は弊社にて引き取らせていただきます。
- 修理の際、弊社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。

修理を依頼されるときは～持込修理

44、45 ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容		
品名	ブルーレイディスクプレーヤー	
形名	SD-BD3	
お買い上げ日	年　月　日	
故障の状況	できるだけ具体的に	
ご住所		
お名前		
電話番号		
便利メモ	お買い上げ店名	☎（　　）　－

お客様へ…おぼえのため、お買い上げ店名を記入すると便利です。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金の仕組み	
技術料	故障した商品を正常に修復するための料金です。
＋	
部品代	修理に使用した部品代金です。

商品の修理サービスは **お買い上げの販売店がいたします。**

■ 修理・お取扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼はお買い上げの販売店にお申し付けください。

新製品などの商品選び、本機に関する取扱方法などのご相談や販売店に修理のご相談ができない場合

『東芝DVDインフォメーションセンター』［受付時間］ 365日 9:00～20:00

［一般回線からのご利用は］ フリーダイヤル **0120-96-3755**
（フリーダイヤルは携帯電話・PHSなど一部の電話ではご利用になれません）

［携帯電話からのご利用は］ ナビダイヤル **0570-00-3755**（通話料：有料）
（PHS・一部のIP電話などでは、ご利用になれない場合がございます）

［IP電話などからフリーダイヤルサービスをご利用いただけない場合は］ **03-6830-1855**（通話料：有料）

［FAXからのご利用は］ **03-3258-0470**（通信料：有料）

本機に関するネットワーク設定についてのご相談

『RDシリーズサポートダイヤル』 ［受付時間］ 365日 9:00～18:00
（12:30～13:30は休止）

ナビダイヤル **0570-00-0233**（通話料：有料）（PHS・一部のIP電話などでは、ご利用になれない場合がございます）

「東芝DVDインフォメーションセンター」「RDシリーズサポートダイアル」は、株式会社東芝デジタルプロダクツ&サービス社が運営しております。
お客様からご提供いただいた個人情報は、ご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
東芝グループ会社もしくは協力会社より対応させていただくことが適切と判断される場合に、お客様の個人情報を提供することがあります。

株式会社 東芝
デジタルプロダクツ&サービス社
〒105-8001　東京都港区芝浦１－１－１
＊所在地は変更になることがありますのでご了承ください。

Printed in China